

### 令和5年度展覧会

#### 展覧会の方針

日本における写真・映像文化のセンター的役割を果たすと共に、国際的な交流の拠点となるべく、コレクションの活用と自主企画・誘致展を組み合わせながら、「質の高い写真・映像文化と出会う美術館」にふさわしい展覧会を開催する。

令和5年5月、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが「5類」に移行されたことを踏まえ、感染症リスクに配慮しつつ、講演会やギャラリートーク、展覧会関連ワークショップなど展覧会理解を深める多彩な関連事業を開催し、鑑賞機会の創出を行う。

#### ○感動を与える

観覧者に感動を与えたとともに、専門家から一般の鑑賞者まで、満足度の高い展覧会を実施する。

#### ○ミュージアム・コンプレックスの実現

写真美術館の3つの展示室あるいはホールを有効に組み合わせ、いつ誰がきても楽しめる展覧会のラインナップを提供する。

#### ○全てが企画展

固定的な常設展示と異なり、収蔵品を有機的に結びつける収蔵企画展、または独自の切り口による自主企画展等を開催する。

#### ◇収蔵展

世界でも有数の3万7千点にのぼる写真・映像コレクションを活用し、調査研究に基づいた館独自の視点で展覧会を企画・実施した。

#### (1) TOPコレクション展

より多くの作品をより多様なテーマで来館者に鑑賞していただくために、収蔵作品の中から毎年テーマを設定し、珠玉の名品を紹介する展覧会を開催している。「セレディピティ 日常のなかの予期せぬ素敵な発見」では、特別ではない、何気ない日常を切り取った作品などを紹介し、人生の豊かさや鑑賞の楽しさを体感する機会とした。

また、「何が見える?『覗き見る』まなざしの系譜」では、写真・映像の発展に際して生じた「覗き見る」という視覚の形式をキーワードに、19世紀から現代作家まで、収蔵品をさまざまな角度から紹介した。

#### (2) 重点収集作家個展

第三期重点収集作家のひとり、ホンマタカシの個展「即興 ホンマタカシ」では、「都市によって都市を撮影する」というテーマの下、建築物の一室をピンホールカメラに仕立て、世界の都市を撮影した近作を中心に展示し、写真・映像表現にラディカルな問いを投げかける作家の今に迫った。

#### (3) 映像展

「風景論以後」では、風景論をめぐる1970年前後の日本における写真映像表現を出発点に、当時の資料、現代作家作品とともに紹介し、今日にいたるまでの写真映像と風景の変容を、当館のコレク

ションを中心に包括的に検証し、会期中には1階ホールで風景論をめぐる映画上映を行った。

#### ◇自主企画展

支援会費を中心とした自主財源を効果的に用い、多様な切り口で、話題性のある展覧会を国際動向もふまえて実施した。

#### (1) 新進作家展

将来の写真・映像文化を担う新進作家の発掘につとめ、毎年テーマを設定して展覧会を開催し、写真・映像文化の裾野を広げるためのシリーズ。第20回となる本展は「見るまえに飛べ」をテーマに、不確かな時代を生き抜くための原動力の在処を示す5人の新進作家を紹介した(出品作家:山上新平、淵上裕太、星玄人、夢無子、うつゆみこ)。

#### (2) 調査研究に基づく独自テーマの展覧会

130を超える国と地域を取材し、70年以上にわたり人間のドラマを写し続けてきた田沼武能の回顧展「田沼武能 人間讃歌」を開催した。

また、生きた時代も地域も異なる二人の写真家の足跡をたどる「本橋成一とロベール・ドアノー 交差する物語」を開催、日仏を代表する写真家によるヒューマニズムあふれる世界観を紹介した。本展は田川市美術館(福岡県)に巡回を行った。

「記憶:リメンバーズ」では、写真・映像が人々のどのような「記憶」を捉えてきたのかをテーマに日本、ベトナム、フィンランドで注目されるアーティスト7組8名の作品を紹介した。

#### (3) 恵比寿映像祭2024

第16回となる今回は、「月へ行く30の方法」を総合テーマに、当館及び恵比寿ガーデンプレイスや近隣施設などを会場に、地域と連携しながら、展示、上映、教育普及プログラム、野外展示、トークやシンポジウム等、多彩なプログラムを実施した。また、昨年の「コミッション・プロジェクト」で特別賞を受賞した2名の作品を展示するとともに、映像祭会期中に次回「コミッション・プロジェクト」出品のアーティスト4名を選出した。

#### ◇誘致展

写真団体や企業、マスコミ等と協力し、外部企画・資金を導入して、展覧会にヴァリエーションをもたらした。

TOPコレクション セレンディピティ

日常のなかの予期せぬ素敵な発見

TOP Collection: Serendipity

Wondrous Discoveries in Daily Life

期間：令和5年4月7日（金）～7月9日（日）82日間

会場：3階展示室

主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

当館の収蔵作品のなかから、セレンディピティ（偶然と才気によって、予期しない発見をすること）をキーワードに、ありふれた日常の何気ない一瞬を撮影した作品などを紹介。

写真家に予期せず訪れたささやかな心の機微によって撮影された作品や、作品を発表する際にセレンディピティによって組み込まれた作品、展覧会鑑賞という行為を通して来館者に訪れるセレンディピティなどを通して、何年も続く制限された日々のなかで、たくさん経験した様々な辛い出来事や不都合な出来事を乗り越え、写真家の視点を回復することで、セレンディピティの産物としての癒しや心の豊かさを回復する種を見つけることを提案した。展覧会図録の冒頭に、動物のイラストによる物語のページを設け、作品の見方や見るポイントを紹介した。

出品作家：北井一夫、牛腸茂雄、吉野英理香、今井智己、潮田登久子、島尾伸三、エドワード・マイブリッジ、相川勝、葛西秀樹、山崎博、佐内正史、鈴木のだみ、浜田涼、奈良美智、中平卓馬、エリオット・アーウィット、齋藤陽道、畠山直哉、本城直季、石川直樹、ホンマタカシ、井上佐由紀

出品点数：111点

入場者数：21,875人

企画：武内厚子

展覧会図録

『TOPコレクション セレンディピティ 日常のなかの予期せぬ素敵な発見』

執筆者：武内厚子、山崎香穂、白石咲良

編集：武内厚子

編集補助：山崎香穂

発行：東京都写真美術館



TOPコレクション 何が見える？

「覗き見る」まなざしの系譜

TOP Collection: A Genealogy of “Peep Media” and the

Gaze

期間：令和5年7月19日（水）～10月15日（日）77日間

会場：3階展示室

主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

本展では、写真美術館の所蔵する映像史・写真史に関わる豊富な作品・資料を中心に、「覗き見る」ことを可能にした装置と、それによって生み出されたイメージ、そして「覗き見る」ことからイメージネーションを広げた作家たちの多様な表現を紹介した。

写真や映像を撮影する装置として発明されたカメラは、まさに覗き見る装置であると言える。カメラの原型となったカメラ・オブスクラは、外界の景色を写し取るため、真つ暗な箱の一方の壁にピンホールを開けた装置で、その後ピンホールはレンズに代わり、小型化され、携帯可能な装置となっていく。このカメラ・オブスクラを反転させた構造を持ち、レンズ越しに絵を覗いて鑑賞する装置はピープショーと呼ばれ、様々な形態が生み出され、興行としても成立していく。覗き見る装置のヴァリエーションとしては、顕微鏡や望遠鏡に代表される科学的な光学機器や、現在のVRの原型ともいえるステレオスコープのような没入型の装置や、動く絵を生み出す装置などが挙げられる。こうした多種多様な装置の発明と流行により、まだ見ぬ新たなイメージの誕生が後押しされ、無数の表現が生み出されてきた。展覧会を通じて、現代にも受け継がれる「覗き見る」まなざしの系譜を、写真美術館のコレクションを中心に探求した。

出品作家：ロール・アルバン＝ギヨー、ウィリアム・ベンジャミン・カーペンター、ギョーム＝バンジャマン・アマン・デュシェンヌ・ド・ブローニュ、ハロルド・ユージン・エジャートン、フランス・フリス、出光真子、石川亮、伊藤隆介、エティエンヌ＝ジュール・マレー、エドワード・マイブリッジ、奈良原一高、オノデラユキ、下岡蓮杖、ロバート・シュレイアー

出品点数：215点

入場者数：20,191人

企画：遠藤みゆき

展覧会図録

『TOPコレクション 何が見える？ 「覗き見る」まなざしの系譜』

執筆者：草原真知子、遠藤みゆき

編集・発行：東京都写真美術館



## 風景論以後

### After the Landscape Theory

期間：令和5年8月11日（金・祝）～11月5日（日）75日間  
会場：B1階展示室

主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館  
／日本経済新聞社  
助成：公益財団法人ポラ美術振興財団

「風景は何か」を問いかける風景論。どこにでもある風景を現実の側からとらえ直す、視覚芸術を通じて、文化、社会、政治との関係から風景を表現していくそのラディカルな方法は、1970年前後の写真家、映像作家に大きな影響を与えた。本展では、こうした風景論をめぐる日本の写真映像表現を、当時の資料を交えて歴史的に再考するとともに、今日の現代作家にいたるまでの写真映像と風景の変容を、コレクションを中心に包括的に検証。また1階ホールでは、出品作家による関連イベントおよび風景論をめぐる映画上映を行い、展覧会の魅力を多角的に紹介した。

出品作家：笹岡啓子、遠藤麻衣子、今井祝雄、清野賀子、峯利子、中平卓馬、足立正生／岩淵進／野々村政行／山崎裕／佐々木守／松田政男、足立正生、岩淵進、野々村政行、山崎裕、佐々木守、松田政男、大島渚、若松孝二

出品点数：91点  
入場者数：23,677人  
企画：田坂博子

#### 展覧会図録

『風景論以後』

執筆者：田坂博子、平沢剛（映画研究者）  
編集・発行：東京都写真美術館



## 即興 ホンマタカシ

### Revolution 9: Homma Takashi

期間：令和5年10月6日（金）～令和6年1月21日（日）90日間  
会場：2階展示室

主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

1999年に写真集『東京郊外』（光琳社出版）で第24回木村伊兵衛写真賞を受賞した、ホンマタカシ（1962年、東京都生まれ）の日本の美術館では約10年ぶりの個展。

作家が「都市によって都市を撮影する」と述べる、建築物の一室をピンホールカメラに仕立て世界各地の都市を撮影した、〈THE NARCISSISTIC CITY〉を中心に構成。「即興」を一つのキーワードに、作家本人による即興パフォーマンスの実施など、作品だけではなく展覧会自体にも偶然性を取り入れた。ホールにて映像作品の特集上映も行い、写真・映像表現にラディカルな問いを投げかける作家の今に迫った。

出品作家：ホンマタカシ  
出品点数：61点  
入場者数：29,577人  
企画：伊藤貴弘

#### 展覧会図録

『即興 ホンマタカシ』

執筆者：ガブリエル・リッター（カリフォルニア大学サンタバーバラ校アート・デザイン・建築美術館館長／カリフォルニア大学サンタバーバラ校美術史・建築史専攻准教授）、伊藤貴弘  
編集・発行：東京都写真美術館



## 自主企画展

### 深瀬昌久 1961-1991

#### レトロスペクティブ

### Masahisa Fukase 1961-1991

#### Retrospective

期間：令和5年3月3日（金）～6月4日（日）57日間（令和5年4月1日以降の開館日数）

会場：2階展示室

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館  
協賛：東京都写真美術館支援会員

深瀬昌久は自身の私生活を深く見つめる視点によって、1960年代の日本の写真史のなかで独自のポジションを築く。それは写真の原点を求めようとする行為でもあり、のちに「私写真」と呼ばれ、写真家たちが向かった主要な表現のひとつとして展開した。

本展では、〈遊戯〉〈洋子〉〈烏（鴉）〉〈家族〉など、主要作品を網羅した東京都写真美術館のコレクションに加え、当館がはじめて出品する《無題（窓から）》〈洋子〉、日本大学芸術学部が1980年代初頭に収蔵した〈烏（鴉）〉、個人所蔵の〈ブクブク〉〈サスケ〉ほか、充実した作品群によって構成。1960年代から90年代の初頭に活動した深瀬昌久の軌跡を辿り、彼独自の世界に触れる機会とした。

出品作家：深瀬昌久

出品点数：117点

入場者数：24,272人（令和5年3月3日～6月4日）

企画：鈴木佳子

#### 展覧会図録

『深瀬昌久 1961-1991 レトロスペクティブ』

執筆者：トモ・コスガ（深瀬昌久アーカイブスディレクター）、鈴木佳子

編集：トモ・コスガ、東京都写真美術館

発行：赤々舎



### 田沼武能 人間讃歌

#### Tanuma Takeyoshi: Viva Humanity!

期間：令和5年6月2日（金）～7月30日（日）51日間

会場：地下1階展示室

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／朝日新聞社

特別協賛：キャノンマーケティングジャパン株式会社／東京工芸大学

協賛：東京都写真美術館支援会員

協力：公益社団法人日本写真家協会／公益社団法人日本写真協会／全日本写真連盟／一般社団法人日本写真著作権協会

田沼武能は、東京写真工業専門学校（現・東京工芸大）卒業後、写真家・木村伊兵衛に師事し、『芸術新潮』の嘱託写真家として芸術家や文化人を撮影、その後はタイム・ライフ社の契約写真家となるなど、フォトジャーナリズムの世界で華々しい活躍を展開した。1972年からはライフワークとして世界の子供たちを撮影、黒柳徹子ユニセフ親善大使の各国訪問に私費で同行取材を行い、生涯で130を超える国と地域に足を運んだ。

田沼は国内外で精力的な取材活動を展開し、自身の作品を発表し続け、その旺盛な好奇心と行動力は生涯衰えることはなかった。その一方で、母校・東京工芸大学で後進の指導にあたり、日本写真家協会会長、日本写真著作権協会会長、日本写真保存センター代表など、写真界の要職を歴任しながら、わが国の写真文化の普及啓発、写真の著作権保護にも力を注ぐなど、大きな役割を果たした。本展では代表作に未発表最新作「武蔵野」を紹介し、ヒューマニスティックなまなざしで人間のドラマを描き続けていた田沼の70年を超える写真家としての軌跡を辿った。

出品作家：田沼武能

出品点数：206点

入場者数：17,580人

企画：関次和子

#### 展覧会図録

『田沼武能 人間讃歌』

執筆者：関次和子、田沼武能

編集・発行：東京都写真美術館



## 本橋成一とロベール・ドアノー

### 交差する物語

Motohashi Seichi & Robert Doisneau

Chemins Croisés (Narrative Passages)

期間：令和5年6月16日(金)～9月24日(日) 87日間

会場：2階展示室

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

後援：在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本／

J-WAVE 81.3FM

助成：公益財団法人 花王芸術・科学財団

協賛：東京都写真美術館支援会員

特別協力：アトリエ・ロベール・ドアノー／コンタクト／ポレポレタイムス社

当館ではこれまで「木村伊兵衛とアンリ・カルティエ＝ブレッソン 東洋と西洋のまなざし」展(2009年)、「植田正治とジャック・アンリ・ラルティエグ 写真であそぶ」展(2013年)と、日仏を代表する二人の写真家による展覧会を開催してきており、本展は同シリーズの第三弾として開催された。

本展では、写真家・ドキュメンタリー映画監督として活動してきた本橋成一(1940—)と、フランスの国民的写真家ロベール・ドアノー(1912—94)の活動の軌跡を辿りながら、時代や地域を超えて響き合う二人の写真家のまなざしを展覧することを試みた。この二人の写真家の撮影してきた被写体およびモチーフの類似性をきっかけに、この二人の写真家がどのようにルポルタージュをとらえてきたか、それぞれの作家の視線の根幹を探り、異なる作家同士の作品が共鳴する場を生み出そうとしたものである。

そしてこの試みのために、本展では、50年を超える活動の中で本橋が取り組んできた多様な作品と、ドアノーの残した45万点を超える写真を管理するアトリエ・ロベール・ドアノーからの借用作品および東京都写真美術館のコレクションの中から、本展のために精選した未発表を含む241点を5章構成によって展示した。

出品作家：本橋成一、ロベール・ドアノー

出品点数：241点

入場者数：25,104人

企画：山田裕理

### 展覧会図録

『本橋成一とロベール・ドアノー 交差する物語』

執筆者：本橋成一(出品作家)、フランシーヌ・ドルティル(アトリエ・ロ

ベール・ドアノー共同代表)、

クレモンティーヌ・ドルティ

ル(ジャーナリスト、映画監

督、美術史家)、山田裕理

編集：平凡社、東京都写真美術館

発行：平凡社



## 見るまえに跳べ

日本の新進作家 vol.20

Leap before you look

Contemporary Japanese Photography vol.20

期間：令和5年10月27日(金)～令和6年1月21日(日) 72日間

会場：3階展示室

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／東京新聞

協賛：東京都写真美術館支援会員

写真・映像の可能性に挑戦する創造的精神を支援し、将来性のある作家を発掘するため、新たな創造活動の展開の場として2002年より開催している「日本の新進作家」展。20回目となる本展では、独自の方法で生きるための原動力を示す5名の作家を紹介した。日常を揺るがすような大きな出来事が起こる今日、孤独の中にありながらも人とのつながりを手繰り寄せようとする彼らの作品を展示し、不確かな時代を生き抜くための原動力を探った。

出品作家：うつゆみこ、淵上裕太、星玄人、夢無子、山上新平

出品点数：384点

入場者数：20,766人

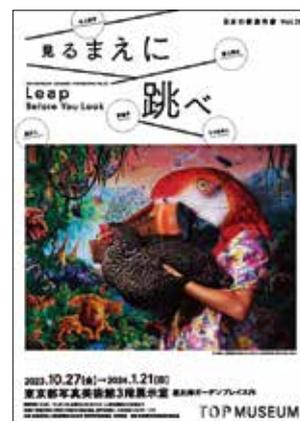
企画：浜崎加織

### 展覧会図録

『見るまえに跳べ 日本の新進作家 vol.20』

執筆者：浜崎加織

編集・発行：東京都写真美術館



恵比寿映像祭2024

月へ行く30の方法

Yebisu International Festival for Art & Alternative

Visions 2024

30 Ways to Go to the Moon

期間：令和6年2月2日（金）～2月18日（日）15日間

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／日本経済新聞社

共催：サッポロ不動産開発株式会社／公益財団法人日仏会館

助成：オランダ王国大使館／台湾文化部／台北駐日経済文化代表処 台湾文化センター

後援：駐日韓国大使館 韓国文化院／株式会社TBSテレビ/J-WAVE 81.3FM

協賛：サッポロビール株式会社

恵比寿映像祭2024では、「月へ行く方法」という命題を、写真や映像を主とした様々な表現によってひも解き、アーティストだけでなく、そこに参加する観客とともに考えていく試みを行った。

2階展示室では、東京都写真美術館のコレクションを含む、多様な社会的・文化的背景を持った作家たちの映像、写真、資料などを展覧し、そこから導かれる集合的知性によって我々の未来の在り方を提示した。また展示室の中央では、連日、パフォーマンス、トーク、ディスカッション、ワークショップなどのプログラムを行い、作家と来場者がコミュニケーションを交わり、ともに思考を重ねていく場を生み出していった。ひとりひとりが出来事を目撃者や体験者となることで、記録の装置（メディア）、記憶の図鑑となるような鑑賞体験を目指した。

地下1階展示室は、科学や理論では解明しきれない未知なる可能性や思考を示唆する作品やプロジェクトを紹介し、2階を集合知的な空間とするならば、地下1階は、その集合知から学びながらも、さらなる想像力によって飛躍する果てしない未来への旅のスタート地点とした。

今回の恵比寿映像祭の特徴の一つは、映像の一回性に着目し、映像という複製芸術でありながら、反復や非場所という性質とは正反対である一回性にこだわった作品、パフォーマンスやユニークピース、すべてを目撃（鑑賞）することができないような時間的な奥行きや限界に取り組む作品、また映像制作のプロセスに身体的な行為や思考を作用させることで、その場で完成し、消滅していくような作品を紹介した。

※総合テーマは、土屋信子「30 Ways To Go To The Moon/月へ行く30の方法」展（2018年）のタイトルより引用

展示 | 東京都写真美術館

○3階展示室

コミッション・プロジェクト特別展示

荒木悠／金仁淑

○2階展示室およびロビー

キャシー・アッカー／荒川ナッシュ医／コリー・アーケンジェル／有馬かおる／ジョン・バルデッサリ／ダラ・バーンバウム／マルセル・ブローターズ／周慶輝／ジェイ・チュン&キウ・タケキ・マエダ／フェリックス・ゴンザレス＝トレス／デイヴィッド・ハモンズ／長谷川友香／ミヤギフトシ／山/完全版／中谷美二子／白雙全／ジョアンナ・ピオトロフスカ／良知暁／

関川航平／ダヤニータ・シン／杉原玲那／高橋凜／王伊芙蓉韜程（エヴェリン・タオチェン・ワン）／トレイシー・モファット／米田知子／デュアン・マイケルズ／スーザン・ダージェス／ブラッサイ／デイヴィッド・ヴォイナロビッチ／アピチャッポン・ウィーラセタクン／李家昇／ウィリアム・クライン／岡上淑子

○地下1階展示室

青木陵子＋伊藤存／フェンバーガーハウス／ロジャー・マクドナルド／リッスン・トゥ・ザ・シティ／土屋信子

上映 | 東京都写真美術館1Fホール

ジャッド・タリー、ハロルド・クロックス〈デイヴィッド・ハモンズの芸術と時代《The Melt Goes On Forever》〉／バーナデット・コーボレーション 特集／崙利子新作ドキュメンタリー《ゆっくりあるく》／石と太陽 — ①デボラ・ストラットマン《最後に残るもの》②ジブリル・ディオップ・マンベティ《「太陽」を売った少女》／台湾短編映像芸術の今 ①袁廣鳴《日常演習》②許家維《和平島の物語》③吳天章《さらば、春秋閣よ》④蘇匯宇《唐朝綺麗男（1985, 邱剛健）》⑤饒加恩《フーツラ》⑥李亦凡《すみません、これどうやったらオンになりますか》⑦劉玗《なんかここに来ると落ち着くんですよ》⑧廖祈羽《忘憂公園》⑨許哲瑜《シングルコピー》⑩張徐展《Si So Mi》⑪崔廣宇《現代生活の練習：最高に美しい風景》《現代生活の練習：演技ではありません》《現代生活の練習：最高に美しい風景》⑫王雅慧（ワン・ヤーホイ）《わたしが月を見るとき》／[スペシャル上映] American Boyfriend: For a Stranger ①トム・ルブニッツ《Listen To This》②ミヤギフトシ《The Ocean View Resort / オーシャン・ビュー・リゾート》③ハナ・クインラン&ロジャー・ヘイスティングス《Something for the Boys》／月へ向かうヒントが得られる?11のアニメーション — DigiCon6 ASIA ①新海大吾《ぼくがかわいい黒いもの》②ネイト パントウムシンチャイ《Wayward Gods》③孔佑陽《Homeward Journey》④松本伊代《ピロピロブ》⑤許願《Sewing Love》⑥チェ ミンホ《The end of a voyage》⑦池辺遼《520》⑧陳林棟《回》⑨モナ・シャヒ《The Red Fire》⑩木原正天《トモヤ!》⑪フライング モンキーズ プロダクション《Monsoon Blue》／クロベニグンジョウ シロレモン — 8ミリ短編映画特集：①崙利子《ヴァンダ12年》②宮田靖子《白々》③小口容子《アマミノクロウサギとベニテングダケ》④小田香《Lighthouse》／エドゥアルド・ウィリアムズ《ヒューマンサージ3》／バスマ・アルシャリフ《ウロボロス》

ライブ・イベント | 東京都写真美術館2F展示室

荒川ナッシュ医／金仁淑／リッスン・トゥ・ザ・シティ／山/完全版／良知暁／関川航平／高橋凜／袁廣鳴（ユエン・グァンミン）、岩切澤、高嶺格／王伊芙蓉韜程（エヴェリン・タオチェン・ワン）

シンポジウム

○東京都写真美術館1Fホール

「コミッション・プロジェクト委嘱制作と映像作品の可能性」

沖啓介、斉藤綾子、レオナルド・バルトロメウス、メー・アーダードン・インカワニット

モデレーター 田坂博子

「台湾映画の修復・保存および台湾新浪潮の受容の現在」

張怡蓁、孫松榮、近藤健一

スペシャルトークセッション | 東京都写真美術館1Fホール

[CCBT 連携企画] 「Poems in Code ---ジェネラティブ・アートの現在」

セオ・ヒョジョン、高尾俊介 モデレーター 廣田ふみ

○日仏会館ホール

[日仏会館共催企画] 「MOONAGE とテクノロジー・アート」

畠中実、クリストフ・シャルル モデレーター 藤原邦一

社会包摂プログラム

①だれもが楽しめる「やさしい」見どころガイド

②手話通訳付き「たのしい」ギャラリーツアー

③TOP ボランティアによる展示会場アテンド

### 教育普及プログラム

- ①「縁試し」きょうのあなたにピッタリな作品は？
- ②TOP ボランティアによるアニメーション・オープンワークショップ
- ③ワークショップ「みつける!! 恵比寿映像祭!」講師：北川貴好
- ④ワークショップ「今日の気持ちを写真にしよう～フォトグラムで感じる意識のながれ～」
- ⑤色と形と言葉のゲーム

### オフサイト展示

《Poems in Code—ジェネラティブ・アートの現在／プログラミングで生成される映像》セオ・ヒョジョン、高尾俊介

### 地域連携プログラム

公益財団法人日仏会館/TMF日仏メディア交流協会/YEBISU GARDEN CINEMA/MA2Gallery/工房親/MuCuL/NADiff a/p/a/r/t /MEM /AL/ART FRONT GALLERY/N&A Art SITE/POETIC SCAPE/景丘の家/Koma gallery

出品作家：122組

出品点数：233点（展示161点、上映10プログラム44点、ライブ・イベント1点、オフサイト27点）

入場者数：87,839人

企画：兼平彦太郎（共同キュレーター）、田坂博子、邱于瑄、多田かおり、藤村里美、小林麻衣子、中野敬子、武内厚子、山田裕里、鈴木彩子、池田良子、平澤綾乃、柳生みゆき

### リーフレット（タブロイド版）

編集：恵比寿映像祭2024企画チーム、櫻井拓（のほ本）、江口よしこ、中島ふみえ

発行：東京都写真美術館

### 冊子＜コミッション・プロジェクト＞

編集：恵比寿映像祭2024企画チーム、櫻井拓（のほ本）、江口よしこ、中島ふみえ

発行：東京都写真美術館



記憶：リメンブランス

—現代写真・映像の表現から

Remembrance beyond images

期間：令和6年3月1日（金）～6月9日（日）27日間（令和6年3月31日まで  
の開館日数）

会場：2階展示室

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

協賛：東京都写真美術館支援会員

助成：フィンランドセンター

写真・映像は、人々のどのような「記憶」を捉えようとしてきたのか。現場で記録するルポルタージュやドキュメンタリーだけでなく、時間や空間が隔てられていても、観る者の感覚を揺さぶり、想像力を拡張させることで目には見えない記憶を伝える試みも続けられてきた。それぞれが他者の記憶、あるいは時代に刻まれたイメージと観る者自身の記憶とを結び付ける写真・映像の特性を活かしたものでありながらも、作家たちのアプローチは多様である。

本展では、『決闘写真論』（1976年）の〈誕生日〉と〈家〉における篠山紀信の示唆を起点としながら、日本、ベトナム、フィンランドの注目される7組8名のアーティストたちによる作品を紹介した。

出品作家：篠山紀信、米田知子、グエン・チン・ティ、小田原のどか、村山悟郎〔コンセプト：池上高志（サイエンス）+村山悟郎（アート）実装：Alternative Machine + Qosmo, inc.〕、マルヤ・ピリラ、Satoko Sai + Tomoko Kurahara

出品点数：75点

入場者数：8,256人（令和6年3月31日現在）

企画：関昭郎

展覧会図録

『記憶：リメンブランス』

執筆者：石川美子、小田原のどか、関昭郎、多田かおり

編集・発行：東京都写真美術館



## 土門拳の古寺巡礼

Domon Ken: A Pilgrimage to Ancient Temple

期間：令和5年3月18日（土）～5月14日（日）39日間（令和5年4月1日以降の開館日数）  
会場：地下1階展示室

主催：株式会社クレヴィス  
共催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館  
協力：公益財団法人さかた文化財団 土門拳記念館

報道写真家として活躍していた土門拳は、1959年に脳出血の軽い発作で倒れ、その後遺症で35ミリカメラを自在に操作できなくなり、三脚に据え付けた大型カメラによる「古寺巡礼」の撮影に取り組むことを決意した。建築の細部や仏像の手や足、口元などをクローズアップで捉える独自の作品を掲載した『古寺巡礼』第一集を1963年に上梓。1975年、第五集刊行により完結。本展では、土門が選んだ、力強く個性的な「日本の美」を展覧した。

出品点数：124点  
入場者数：20,091人（令和5年3月18日～5月14日）

### 展覧会図録

『土門拳の古寺巡礼』  
編集・発行：株式会社クレヴィス

## 第48回 2023 JPS展

2023 the 48th Exhibition of the JPS

期間：令和5年5月20日（土）～5月28日（日）8日間  
会場：地下1階展示室

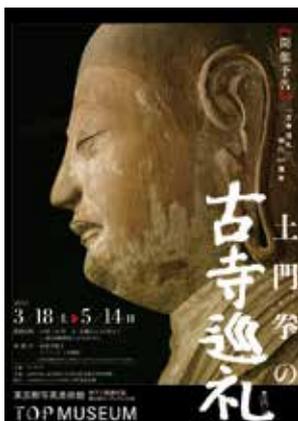
主催：公益社団法人日本写真家協会  
共催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館  
後援：文化庁、東京都

公益社団法人日本写真家協会（略称JPS）は全国に1,300名余りの会員を擁する職業写真家の団体である。本展は当協会創立の翌年1951年に「日本写真家協会 第1回展」を開催、76年に「JPS展」と名称を新たにし、77年からは一般公募を開始した。91年から写真学生を対象とした「ヤングアイ」も開催。デジタル写真の広範な発展が続くなか、JPS展に対する関心も高まり、毎年全国からの多数の応募を記録している。写真展として高い評価を受け、現在ではプロの写真家への登竜門となっている。

出品点数：310点（489枚）  
入場者数：3,125人

### 展覧会図録

『第48回2023 JPS展図録』  
発行：公益社団法人日本写真家協会



東京工芸大学 創立100周年記念展

写真から100年

Integrating Technology & Art through Photography:  
Tokyo Polytechnic University 100th Anniversary  
Exhibition

期間：令和5年11月11日(土)～12月10日(日) 26日間  
会場：地下1階展示室

主催：東京工芸大学  
共催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

東京工芸大学の創立100周年を記念して、その歴史と伝統をたどりながら、日本写真界との関わりや、テクノロジーとアートを融合する写真教育と研究を原点として、工学部と芸術学部を擁する総合大学へと発展した東京工芸大学の特色を紹介する展覧会を開催した。4部構成により、第1部は「工芸ヒストリー」として、日本における写真教育のルーツを紐解きながら、1923年に当時最先端の写真専門の高等教育機関である小西写真専門学校として創立してから現在までの歩みを、第2部は「活躍する卒業生」として、多彩な出身写真家たちの作品、第3部は「写大ギャラリーコレクション」として、国内有数の写真作品コレクションとして知られる東京工芸大学の公開施設である写大ギャラリーの所蔵作品、第4部は「次の100年に向かって」として、未来を創造する東京工芸大学の工学部と芸術学部の共同研究によるプロジェクトやメディアアート作品などを紹介した。

出品点数：129点  
入場者数：9,593人

展覧会図録

『東京工芸大学 創立100周年記念「写真から100年」』  
編著：吉野弘章  
発行：株式会社クレヴィス



プリピクテ Human/人間

Prix Pictet Human

期間：令和5年12月15日(金)～令和6年1月17日(水) 26日間  
会場：地下1階展示室

主催：プリピクテ  
共催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

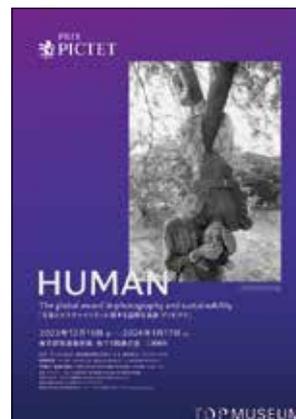
Prix Pictet (以下プリピクテ) は、写真と地球の持続可能性(サステナビリティ)に関する世界有数の賞であり、2008年にピクテ・グループによって創設され、写真の力を通じてサステナビリティという重要な問題に人々の関心を集めることを目的としている。今回で10回目となるプリピクテは、各回ごとにサステナビリティに関するテーマを設定し展覧会を開催している。

本展「HUMAN/人間」では、ショートリストに選ばれた12名の写真家の作品が展示された。作家たちは「HUMAN/人間」というテーマが提示するさまざまな問題を、人々の心に訴えかける強烈なイメージと共に探求し、それぞれ独自の方法で、私たちが共有する人間性と、人間と世界との関係性という大きな問題点を掘り下げている。本展出品作品は、ドキュメンタリー、ポートレイト、風景、光とプロセスの研究など様々な手法が扱われ、またテーマにおいても、先住民の苦境、紛争、幼少時代、経済構造の崩壊、人間の集落に残された産業開発の痕跡、犯罪組織による暴力、国境の土地、移民に至るまで多岐にわたった。それぞれの写真作品は、“地球の世話役”としての私たち人間の役割を冷静に評し、15年前に創設されて以来、プリピクテが重視してきた地球のサステナビリティという重大な問題に光を当て続けていることを示す展覧会となった。

出品点数：72点  
入場者数：11,043人

展覧会図録

『Prix Pictet Human』  
編集：Prix Pictet, Hatje Cantz Verlag GmbH  
発行：Hatje Cantz Verlag GmbH



**APAアワード2024 第52回公益社団法人日本広告写真家協会公募展**  
**52 Public Exhibition of Japan Advertising Photographers Association**

期間：令和6年2月24日（土）～3月10日（日）14日間  
会場：地下1階展示室

主催：公益社団法人日本広告写真家協会（APA）  
共催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館  
後援：経済産業省／文化庁／東京都  
協賛：OMデジタルソリューションズ株式会社／キヤノンマーケティングジャパン株式会社／株式会社玄光社／ソニー株式会社／株式会社ニコンイメージングジャパン／富士フイルムイメージングシステムズ株式会社／株式会社フレームマン  
協力：法人賛助会員各社

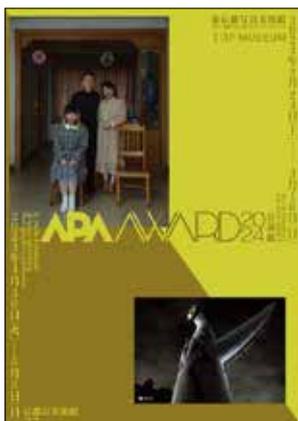
APAアワードは1961年から続く歴史ある写真の公募展で、多くの写真家を輩出してきた。「広告作品部門」と「写真作品部門」の2部門から成り、前者は実際に世の中に流通した広告写真を審査・選出、後者はテーマに沿って自由な発想と写真表現で競い合う写真コンペティション。

今年度の「写真作品部門」の募集テーマは「記録と記憶」。フィルムカメラからデジタル、デジタルカメラからドローンまで、媒体も機材も多様化した写真、溢れるイメージのなか、カメラを通してみること、表現することに向き合い選ばれた入賞・入選作品を紹介した。

出品点数：81点  
入場者数：3,216人

**展覧会図録**

『年鑑 日本の広告写真2023』  
監修：公益社団法人日本広告写真家協会



**没後50年 木村伊兵衛 写真に生きる**  
**Ihei Kimura -Living in Photography 50 Years after His Death**

期間：令和6年3月16日（土）～5月12日（日）14日間（令和6年3月31日までの開館日数）  
会場：地下1階展示室

主催：株式会社クレヴィス  
共催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館  
協賛：株式会社ニコン／株式会社ニコンイメージングジャパン  
後援：公益社団法人日本写真家協会

日本の写真史に大きな足跡を残した写真家・木村伊兵衛（1901-1974）の没後50年展として、仕事を回顧する。文芸諸家のポートレート、東京下町の日常の場面を素早く切り取るスナップショット、広告宣伝写真や歌舞伎などの舞台写真、カラーフィルムによる滞欧作品、秋田の農村をテーマにするシリーズなど、さまざまな被写体を捉えた数多くの傑作を残した。その卓越したカメラ・ワーク、そして写真機材や感光材料への深い理解などは、旺盛な好奇心と豊かな体験に裏付けられている。印刷メディアを媒体として人間の営みのイメージを伝えるという写真の社会的な機能を自覚し、自らを「報道写真家」と位置づけ、独特な眼差しにこだわった写真表現は、見るものの記憶の中にいつまでも生き続ける。

また、没後50年に合わせ、本展では最近発見されたニコンサロンでの木村伊兵衛生前最後の個展「中国の旅」（1972-73）の展示プリントを公開した。

出品点数：171点  
入場者数：5,092人（令和6年3月31日現在）

**展覧会図録**

『新版 木村伊兵衛 写真に生きる』  
執筆者：田沼武能、飯沢耕太郎  
編集：多田亜生、大宮伸介、木村麻紀子  
発行：株式会社クレヴィス



スクールプログラム

東京都写真美術館では、児童・生徒が写真・映像メディアとの出会いを通して豊かな体験学習ができるように、小学校、中学校、高等学校、大学および各種学校の授業や部活動、教職員研修等と連携したスクールプログラムを実施している。制作体験と作品鑑賞の両方を一度に体験できる当館のスクールプログラムは、表現と鑑賞の両面から、写真・映像の仕組みと楽しさを体験的により深く理解できる点が大きな特色となっている。

実施回数：26回

参加人数：423人

**A. アート思考が目覚める鑑賞体験 対話型作品鑑賞**

グループで一つの作品を鑑賞し、参加者それぞれが作品を見て気づいたことや感じたことを率直に話し合いながら見方を深めていく鑑賞方法。はじめにアイスブレイクとして当館オリジナルの「色と言葉のゲーム」を実施し、思ったことを自由に話すことや友達と考えが違うことの楽しさを体験し、その後展示室での作品鑑賞を行う。お互いの発言を共有しつつ鑑賞を進めることで、一人では気づかなかった作品の魅力や多様な見方を知ることができるとともに、自ら能動的に鑑賞する体験がより深い学びと理解を生む。また、対話をしながら鑑賞することは、観察力、洞察力、想像力、傾聴力、発言力、語彙力などさまざまな力を育成するきっかけにもなり、豊かな鑑賞体験とともに、充実した言語活動を能動的に行うことができる。



**B. 暗室での写真制作体験 フォトグラム**

暗室で、昔ながらのモノクロ写真印画紙を用いて「写真を焼きつける」体験をするプログラム。フォトグラムは、様々なものの影や形を印画紙に直接写し取る制作方法です。カメラに頼らない自由な造形活動により、もののかたちの多様さを実感しながら、写真ならではの光と影による表現を体験できる。

モチーフは各自が持参したもの、または当館で用意しているものを使用することができる。



**C. 手作りアニメーション体験—おどろき盤とマジカループ**

おどろき盤（フェナキスティスコープ）は、19世紀を起源とするアニメーション装置です。特製の円盤形の用紙に自由に絵を描き、鑑賞することを通してアニメーションの仕組みを体験的に学びながら、世界にひとつしかないおどろき盤を制作するプログラム。また「おどろき盤」を元にしたWebアプリ「マジカループ」では、タブレット端末やPC等のデジタル・デバイスを活用して回転アニメーションの世界を体験的に学ぶ。どのようにしたら動いて見えるのかを観察し自ら考える能動的学習、自身で描くことによってアニメーション表現を行う体験的理解、完成作品を仲間と共有するコミュニケーションという3つの学びを楽しみながら行うことができる。



## 先生のためのプログラム

### TOPティーチャーズweek

都内の小・中・高等・特別支援学校の先生方を対象に、当館主催展覧会を無料で鑑賞できる日を設定した。まずは先生方に本物の写真・映像作品に触れてもらい、写真・映像作品を活用した授業展開のヒントにしたり、学校での来館を検討したり、自己研鑽に役立ててもらうことが目的である。

実施期間：

第1回 令和5年8月11日(金・祝)～8月18日(金)

対象展覧会：「TOPコレクション覗き見る」「本橋成一とロベール・ドアノー」「風景論以後」

第2回 令和5年10月27日(金)～11月3日(金・祝)

対象展覧会：「即興 ホンマタカシ」「見るまえに跳べ 日本の新進作家vol.20」

第3回 令和6年3月1日(金)～3月8日(金)

対象展覧会：「記憶 リメンブランス」「恵比寿映像祭2024 月へ行く30の方法 コミッションプロジェクト」

令和5年度 スクールプログラム実績

	年月日	来館時間	団体名	対象・学年	区分	人数	実施場所	プログラム内容
1	5月13日(土)	14:30-16:30	都立豊多摩高校 写真部	1-2年生	部活動	17	当館スタジオ	スライドによる対話型作品鑑賞
2	6月7日(水)	10:00-15:00	目黒区立大鳥中学校	中学生	職場体験	2	図書室、当館スタジオ他	美術館の仕事体験
3	6月7日(水)	10:00-12:00	女子美術大学 芸術学部 アートデザイン表現学科	大学生	授業等	26	当館スタジオ	「TOPコレクション セレンディビティ」展と収蔵作品に関する解説
4	6月9日(金)	15:00-19:00	明治学院高等学校 写真部	2年生	部活動	7	当館スタジオ	モノクロ銀塩プリント
5	6月30日(金)	15:00-16:30	東邦大学 看護学科	大学生	授業等	21	当館スタジオ、展示室	対話型作品鑑賞についてのレクチャー、「TOPコレクション セレンディビティ」展による対話型作品鑑賞、展覧会自由鑑賞
6	7月12日(水)	14:30-16:15	足立区立図画工作研究会	図工教員	教員研修	14	当館スタジオ、展示室	展示作品による対話型作品鑑賞、展覧会自由鑑賞、スクールプログラムについてのレクチャー
7	7月21日(金)	14:00-16:00	江戸川区立図画工作研究会	図工教員	教員研修	23	当館スタジオ、展示室	スクールプログラムについてのレクチャー、展覧会自由鑑賞
8	8月11日(金・祝) ～18日(金)		TOP ティーチャーズ week	教員	教員研修	17	展示室	授業での活用を検討する機会の提供
9	8月17日(木)	13:30-16:00	千葉明德高等学校 写真部	高校生	部活動	8	当館スタジオ、展示室	フォトグラム、「本橋成一とロベール・ドアノー」展による対話型作品鑑賞、展覧会自由鑑賞
10	9月12日(火)	16:30-18:00	自由が丘学園高等学校 写真部	1-3年生	部活動	15	当館スタジオ	フォトグラム
11	9月26日(火)	11:15-12:30	東京女学館高等学校	2年生	授業等	10	当館スタジオ	フォトグラム
12	9月27日(水)	14:00-16:00	東洋女子高等学校	1年生	授業等	20	当館スタジオ、図書室	当館収蔵品と図書室についてのレクチャー、展覧会自由鑑賞
13	10月7日(金)	14:00-16:00	帝京科学大学	大学生	授業等	2	当館スタジオ	対話型鑑賞についての体験とレクチャー、展覧会自由鑑賞
14	10月27日(金)～ 11月3日(金・祝)		TOP ティーチャーズ week	教員	教員研修	7	展示室	授業での活用を検討する機会の提供
15	11月4日(土)	14:30-16:30	都立豊多摩高等学校 写真部	1-2年生	部活動	13	当館スタジオ	モノクロ銀塩プリント
16	11月9日(木)	10:00-15:00	都立白鷗高等学校附属中学校	中学生	職場体験	2	図書室、当館スタジオ他	美術館の仕事体験
17	11月23日 (木・祝)	10:00-13:00	台東区立桜橋中学校 美術部	1-2年生	部活動	4	当館スタジオ、展示室	おどろき盤、スライドによる対話型鑑賞、展覧会自由鑑賞
18	12月8日(金)	10:00-12:30	筑波大学附属駒場中学校	3年生	授業等	12	当館スタジオ、展示室	フォトグラム、スライドによる対話型鑑賞、展覧会自由鑑賞
19	12月12日(火)	10:00-12:00	港区立白金の丘小学校	5年生	授業等	59	当館スタジオ、展示室	おどろき盤、「即興 ホンマタカシ」展での対話型鑑賞
20	12月14日(木)	10:00-12:00	港区立白金の丘小学校	5年生	授業等	59	当館スタジオ、展示室	おどろき盤、「即興 ホンマタカシ」展での対話型鑑賞
21	1月19日(金)	10:30-12:00	横浜デザイン学院 日本語学科	専門学校生	授業等	16	当館スタジオ、展示室	スライドによる対話型鑑賞、展覧会自由鑑賞
22	1月19日(金)	14:30-16:00	横浜デザイン学院 日本語学科	専門学校生	授業等	20	当館スタジオ、展示室	スライドによる対話型鑑賞、展覧会自由鑑賞
23	2月3日(土)	14:30-18:30	都立豊多摩高等学校 写真部	1-2年生	部活動	12	当館スタジオ	モノクロ銀塩プリント
24	3月1日(金)～ 8日(金)		TOP ティーチャーズ week	教員	教員研修	3	展示室	授業での活用を検討する機会の提供
25	3月13日(水)	10:00-12:00	京都市立美術工芸高等学校	1年生	授業等	24	当館スタジオ、展示室	恵比寿映像祭コミッションプロジェクトと学芸員についてのレクチャー、質疑応答、展覧会自由鑑賞
26	3月14日(木)	15:00-17:00	自由が丘学園高等学校 写真部	1-3年生	部活動	10	当館スタジオ	作品講評、展覧会自由鑑賞
						合計26回	423人	

## パブリックプログラム

パブリックプログラム事業は、体験的なプログラムによって、参加者の写真・映像への理解を促進し、生きる力やコミュニケーション力を高めるきっかけを提供している。様々な世代、多様な関心を持つ人々が美術館を楽しみ、学ぶことができる場を創出することもまた事業の大きな目的のひとつである。令和5年度は「オープンワークショップ」や「モノクロ銀塩プリントワークショップ」などの定番プログラムを中心に行った。

実施回数 8回  
参加人数 134人

### ●オープンワークショップ：手作りアニメーション体験

タブレットを使って東京都写真美術館オリジナルのデジタル教材「マジカループ」でアニメーションを制作したり、ペンで絵や図形を描いて「おどろき盤\*」を作るプログラム。子供から大人までが一緒に、楽しみながらアニメーションの基本を学ぶことができる。事前申込不要で、開催時間内に自由に参加してもらおうオープンワークショップとして開催した。

\*おどろき盤（フェナキスティスコープ）は、19世紀を起源とする原始的なアニメーション装置。円盤状の紙に絵や図形を少しずつ変化させながら描き、それを鏡に向かって回転させて、盤上のスリットを通して鏡に映る円盤を見ると、描いた絵が動画として知覚されるという仕組みとなっている。



### ●モノクロ銀塩プリントワークショップ

暗室施設をもつ当館の特色を活かして、1999年以来、不定期ではあるが継続して開催してきた、初めての方が気軽に写真現像を体験できる制作系ワークショップ。デジタル世代のための写真現像体験として格好のプログラムとなっている。参加者が持参したネガフィルムから、それぞれがイメージする写真の仕上がりを目指して、当館スタッフのアドバイスによりモノクロ・プリントを制作した。



### ●TOPボランティアによる対話型鑑賞会

対話型作品鑑賞のファシリテーター研修を受けた当館のボランティアスタッフがナビゲーターを務める鑑賞会。当館の収蔵作品や「即興 ホンマタカシ」展出品作品の中から、ナビゲーターとなるボランティア自身がそれぞれ参加者に鑑賞してもらった作品を選んだ。参加者がお互いの発言を共有し、対話を交えて作品を見ることで、より深い鑑賞を体験することができ、対話型作品鑑賞が初めての方でも気軽に参加できるものとなった。



## 令和5年度 パブリックプログラム実績

	開催日	プログラム名	講師・スタッフ	参加人数	参加費	備考
1	令和5年6月4日(日)	渋谷おとなりサンデー オープンワークショップ「手作りアニメーション体験-おどろき盤」	教育普及プログラム・スタッフ	36	無料	一般/「渋谷おとなりサンデー」関連
2	令和5年7月22日(土)	モノクロ銀塩プリントワークショップ	教育普及プログラム・スタッフ	7	一般4,000円/ 学生3,000円/ 中高生1,500円	一般
3	令和5年7月23日(日)	モノクロ銀塩プリントワークショップ	教育普及プログラム・スタッフ	8	一般4,000円/ 学生3,000円/ 中高生1,500円	一般
4	令和5年7月29日(土)	TOPボランティアによる手作りアニメーションワークショップ	当館ボランティアスタッフ	31	無料	一般/「何が見える?『覗き見る』まなざしの系譜」展関連
5	令和5年7月30日(日)	TOPボランティアによる手作りアニメーションワークショップ	当館ボランティアスタッフ	18	無料	一般/「何が見える?『覗き見る』まなざしの系譜」展関連
6	令和5年12月15日(金)	TOPボランティアによる対話型鑑賞会	当館ボランティアスタッフ	12	無料	一般(中学生以上)
7	令和6年1月14日(日)	TOPボランティアによる対話型鑑賞会	当館ボランティアスタッフ	14	無料	一般(中学生以上)
8	令和6年3月17日(日)	モノクロ銀塩プリントワークショップ	教育普及プログラム・スタッフ	8	一般4,000円/ 学生3,000円/ 中高生1,500円	一般
合計8回 134人						

社会包摂事業は、あらゆる人が利用しやすい美術館づくりに取り組んだ。障害のあるなしにかかわらず、シニア、居場所を必要としていることもたちなど様々な背景を持つ人が、写真・映像を楽しみ、学ぶことができるインクルーシブな場づくりを目指し事業を行った。なお、一部はクリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョーの事業として行った。

実施回数 31回 参加人数 323人

手話による展覧会解説動画

配信本数 6本 合計視聴回数 714回

### ●こどもの居場所づくり

学校や家庭以外に居場所を必要としているこどもを支援する目的として美術館での居場所づくりを行っている。写真作品の鑑賞や写真家のエピソードを通じて多様な世界を知る。創作活動によって自己表現をする。美術館で働く人や地域のボランティアスタッフと世代を超えた交流を行うことにより、生きる力やコミュニケーション力を高めることを目的としている。



### ●目黒区社会福祉協議会との共催事業の実施

目黒区社会福祉協議会と協定を結び、「こどもの居場所づくり」に関する共催事業として11月に「子どものサードプレイスについて考える」を開催し、こども関係団体と意見交換を行った。3月にはこどもの居場所づくり事業「いどりぶれいす〜写真美術館によっていこ〜」を開催した。



### ●外国ルーツの方向けの事業

専門学校 横浜デザイン学院 日本語学科を受け入れ、スライドによる対話型鑑賞と展覧会自由鑑賞を行った。

### ●手話通訳付き ギャラリートーク

手話を母語とする人の情報支援として実施するプログラム。展覧会担当学芸員が手話通訳者をまじえて、展覧会の見どころをわかりやすく解説した。

### ●手話による展覧会解説動画

手話を母語とする人の情報支援として、展示室内の解説パネルを手話にした動画の配信を行った。来館者が自身のスマートフォンやタブレット端末で、二次元コードを読み取ることで視聴ができる。今年度は、6展覧会の動画を配信した。

出演：小藺江 聡(手話母語者)

手話通訳者：瀬戸口 裕子

山崎 薫

撮影・編集：藤澤 卓也



### ●インクルーシブ鑑賞ワークショップ

「見るときどき見えない、のち話す、しだいに見える」

障害の有無にかかわらず、多様な背景を持つ人が集まり、ことばを交わしながら一緒に作品を鑑賞するワークショップ。

見える人と見えない人の2人のナビゲーターとともに作品を鑑賞し、見えていることや感じていることを言葉にして伝えあいながら作品を鑑賞した。今年度より展示室での対面開催が再開したが、館への来館が困難な方を対象としてZoomによるオンラインでも開催した。

講師：視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ

### ●網膜投影型カメラの導入

「見えにくい」「まぶしい」「見える範囲が狭い」など、日常生活で視覚に不自由をきたしているロービジョンの方々の新しい視覚体験を提供することを目的として、網膜投影型カメラを導入しインクルーシブなプログラムで活用した。



### ●鑑賞サポート・デー

3月に、視覚障害や聴覚障害の方、車椅子をご利用の方、高齢者、乳幼児、外国ルーツの方を対象として、筆談やタブレットによる展示室で鑑賞サポートを行う「鑑賞サポート・デー」を開催した。

### ●アテンドボランティアの育成

ユニバーサルサービスの定義を理解し、鑑賞にサポートが必要な方々の特性と接し方のポイントを学ぶ研修を実施し、アテンドボランティアの育成を行った。

日時：令和5年12月3日（日） 13：30～16：30

テーマ：「心が伝わるユニバーサルサービス研修」

講師：大月真由美・足立真樹子

（ANAビジネスソリューション株式会社）

対象：東京都写真美術館ボランティア

参加：29人



令和5年度 社会包摂事業実績【クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー】

開催日	事業名	講師・スタッフ	対象・団体名・会の名称等	参加人数	会場	プログラム内容	備考
1 6月4日(日)	こどもの居場所づくり	当館職員	だれでも	36	東京都写真美術館 スタジオ	オープンワークショップ(おどろき盤・マジカループ制作)	渋谷おとなりサンデー
2 7月27日(木)	こどもの居場所づくり	当館職員	目黒区田道住区住民会議	15	東京都写真美術館 スタジオ	フォトグラム制作	目黒区田道住区住民会議(子ども)
3 8月1日(火)	こどもの居場所づくり	当館職員	NPO法人 めぐろ子どもの場づくりを考える会 こどもば参加者	19	目黒区中央町 社会教育館	おどろき盤・マジカループ制作	NPO法人 めぐろ子どもの場づくりを考える会 こどもば
4 9月16日(土)	こどもの居場所づくり	当館職員	青少年プラザ職員・ボランティア	13	東京都写真美術館 スタジオおよび展示室	おどろき盤・マジカループ制作、展覧会自由鑑賞	青少年プラザ ステップアップ講座 実地踏査(目黒区教育委員会生涯学習課)
5 9月30日(土)	こどもの居場所づくり	当館職員	目黒区田道住区住民会議	6	東京都写真美術館 スタジオおよび展示室	おどろき盤・マジカループ制作、展覧会自由鑑賞	目黒区田道住区住民会議(子ども)
6 11月8日(水)	こどもの居場所づくり	目黒区児童館館長 田中克己・川口有紀 東京都写真美術館 中野敬子	子どもの居場所づくりに関心のある方	20	東京都写真美術館 スタジオ	事例発表・グループトーク	目黒区社会福祉協議会 共催イベント「子どものサードプレイス考える」
7 11月12日(日)	こどもの居場所づくり	当館職員	知的障害のある青少年(15歳~17歳)	19	東京都写真美術館 スタジオおよび展示室	おどろき盤・マジカループ制作、展覧会自由鑑賞	青少年プラザ ステップアップ講座(目黒区教育委員会生涯学習課)
8 12月17日(日)	こどもの居場所づくり	当館職員	目黒区センター児童館 利用者	2	東京都写真美術館 スタジオおよび展示室	おどろき盤・マジカループ制作、展覧会自由鑑賞	目黒区センター児童館
9 1月19日(金)	外国ルーツの方とのプログラム	当館職員	横浜デザイン学院 日本語学科	16	東京都写真美術館 スタジオおよび展示室	スライドによる対話型鑑賞、展覧会自由鑑賞	横浜デザイン学院
10 1月19日(金)	外国ルーツの方とのプログラム	当館職員	横浜デザイン学院 日本語学科	25	東京都写真美術館 スタジオおよび展示室	スライドによる対話型鑑賞、展覧会自由鑑賞	横浜デザイン学院
11 3月20日(水・祝)	こどもの居場所づくり	当館職員	目黒区田道住区住民会議	7	東京都写真美術館 スタジオおよび展示室	撮影ワークショップ 展覧会自由鑑賞	目黒区田道住区住民会議(子ども)
12 3月23日(土)	こどもの居場所づくり	当館職員	目黒区在住の児童・青少年と保護者	48	東京都写真美術館 スタジオおよび展示室	フォトグラム・マジカループ・色と形と言葉のゲーム、展覧会自由鑑賞	目黒区社会福祉協議会「子どもの居場所」
合計 12回 226人							

令和5年度 社会包摂事業実績【バリアフリー・プログラム】

配信開始日	事業名	講師・スタッフ	対象	視聴回数	備考
1 9月6日(水)	手話による展覧会解説動画制作 「本橋成一とロベール・ドアーノ」展	出演：小園江聡 手話通訳：山崎薫	手話を必要とする方	341	オンライン配信
2 10月6日(金)	手話による展覧会解説動画制作 「TOPコレクション 何が見える?『覗き見る』まなざしの系譜」展	出演：小園江聡 手話通訳：瀬戸口裕子・山崎薫	手話を必要とする方	105	オンライン配信
3 10月24日(火)	手話による展覧会解説動画制作 「風景論以後」展	出演：小園江聡 手話通訳：瀬戸口裕子・山崎薫	手話を必要とする方	110	オンライン配信
4 11月22日(水)	手話による展覧会解説動画制作 「即興 ホンマタカシ」展	出演：小園江聡 手話通訳：瀬戸口裕子・山崎薫	手話を必要とする方	113	オンライン配信
5 12月18日(月)	手話による展覧会解説動画制作 「見るまえに跳べ 日本の新進作家 vol.20」展	出演：小園江聡 手話通訳：瀬戸口裕子・山崎薫	手話を必要とする方	33	オンライン配信
6 3月29日(金)	手話による展覧会解説動画制作 「記憶 リメンブランクス」展	出演：小園江聡 手話通訳：瀬戸口裕子・山崎薫	手話を必要とする方	12	オンライン配信
合計 6回 合計視聴回数 714件					

※視聴回数は令和6年3月31日付

## 令和5年度 社会包摂事業実績【インクルーシブ・プログラム】

	開催日	事業名	講師・スタッフ	対象	利用人数	会場	プログラム内容
1	5月19日(金)	インクルーシブ鑑賞WS「見るときき見えない、のち話す、しだいに見える」	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ	だれでも	7	東京都写真美術館3階展示室およびスタジオ	「TOPコレクション セレンディビティ」展
2	6月10日(土)	インクルーシブ鑑賞WS「見るときき見えない、のち話す、しだいに見える」	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ	だれでも	5	東京都写真美術館3階展示室およびスタジオ	「TOPコレクション セレンディビティ」展
3	7月8日(土)	インクルーシブ鑑賞WS「見るときき見えない、のち話す、しだいに見える」	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ	だれでも	7	オンライン	「TOPコレクション セレンディビティ」展
4	8月12日(土)	インクルーシブ鑑賞WS「見るときき見えない、のち話す、しだいに見える」	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ	だれでも	8	オンライン	「本橋成一とロベール・ドアノー」展
5	9月10日(日)	インクルーシブ鑑賞WS 見るときき見えない、のち話す、しだいに見える	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ	だれでも	5	2階展示室およびスタジオ	「本橋成一とロベール・ドアノー」展
6	10月8日(日)	インクルーシブ鑑賞WS 見るときき見えない、のち話す、しだいに見える	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ	だれでも	7	3階展示室およびスタジオ	「TOPコレクション 何が見える?『覗き見る』まなざしの系譜」展
7	6月16日(金)	手話通訳付きギャラリートーク	武内厚子(当館学芸員)瀬戸口裕子・山崎薫(手話通訳者)	手話が必要とする方	6	ロビーおよび展示室	「TOPコレクション セレンディビティ」展
8	7月14日(金)	手話通訳付きギャラリートーク	関次和子(当館学芸員)瀬戸口裕子・山崎薫(手話通訳者)	手話が必要とする方	3	ロビーおよび展示室	「人間賛歌 田沼武能」展
9	8月4日(金)	手話通訳付きギャラリートーク	山田裕理(当館学芸員)瀬戸口裕子・山崎薫(手話通訳者)	手話が必要とする方	2	ロビーおよび展示室	「本橋成一とロベール・ドアノー」展
10	8月18日(金)	手話通訳付きギャラリートーク	遠藤みゆき(当館学芸員)山崎薫・伊藤妙子(手話通訳者)	手話が必要とする方	3	ロビーおよび展示室	「TOPコレクション 何が見える?『覗き見る』まなざしの系譜」展
11	9月1日(金)	手話通訳付きギャラリートーク	山田裕理(当館学芸員)瀬戸口裕子・山崎薫(手話通訳者)	手話が必要とする方	5	ロビーおよび展示室	「本橋成一とロベール・ドアノー」展
12	9月8日(金)	手話通訳付きギャラリートーク	田坂博子(当館学芸員)瀬戸口裕子・山崎薫(手話通訳者)	手話が必要とする方	1	ロビーおよび展示室	「風景論以後」展
13	9月15日(金)	手話通訳付きギャラリートーク	遠藤みゆき(当館学芸員)山崎薫・伊藤妙子(手話通訳者)	手話が必要とする方	2	ロビーおよび展示室	「TOPコレクション 何が見える?『覗き見る』まなざしの系譜」展
14	10月13日(金)	手話通訳付きギャラリートーク	遠藤みゆき(当館学芸員)山崎薫・伊藤妙子(手話通訳者)	手話が必要とする方	11	ロビーおよび展示室	「TOPコレクション 何が見える?『覗き見る』まなざしの系譜」展
15	11月3日(金)	手話通訳付きギャラリートーク	田坂博子(当館学芸員)瀬戸口裕子・山崎薫(手話通訳者)	手話が必要とする方	8	ロビーおよび展示室	「風景論以後」展
16	12月1日(金)	手話通訳付きギャラリートーク	伊藤貴弘(当館学芸員)山崎薫・伊藤妙子(手話通訳者)	手話が必要とする方	4	ロビーおよび展示室	「即興 ホンマタカシ」展
17	12月15日(金)	手話通訳付きギャラリートーク	浜崎加織(当館学芸員)瀬戸口裕子・山崎薫(手話通訳者)	手話が必要とする方	7	ロビーおよび展示室	「見るまえに跳べ 日本の新進作家 vol.20」展
18	1月5日(金)	手話通訳付きギャラリートーク	伊藤貴弘(当館学芸員)山崎薫・伊藤妙子(手話通訳者)	手話が必要とする方	3	ロビーおよび展示室	「即興 ホンマタカシ」展
19	1月19日(金)	手話通訳付きギャラリートーク	山崎香穂(当館学芸員)瀬戸口裕子・山崎薫(手話通訳者)	手話が必要とする方	3	ロビーおよび展示室	「見るまえに跳べ 日本の新進作家 vol.20」展
合計				19回	97人		

教育普及事業  
教材開発、動画制作

鑑賞を深める手助けと同時に、多様性の理解や社会課題の解決に繋がるオリジナル教材の開発や、写真の原理を楽しみながら理解する動画の制作など、教育普及プログラムを実施するなかで生まれた発想をもとに、当館独自の取り組みを行った。

【教材開発】

対話による鑑賞を促進するための教材と、アニメーション制作の教材を開発し、活用の促進を行った。

「色と形と言葉のゲーム」

対話型作品鑑賞を行う前のウォーミングアップ教材として制作。同じ言葉や同じ形を見ても人それぞれ感じ方が異なることを楽しく理解することができる。

令和5年度は、「恵比寿映像祭2024 月へ行く30の方法」展において教育普及プログラムのイベントとして、当日来館した観覧者鑑賞者にゲームを体験してもらった。

内容物：

- ① 色と形のカード 12色、21種類
  - ② 言葉のカード 80種類
  - ③ あそびかたガイド 1冊
- 価格4,565円  
令和5年度 販売数 199個

イベント：「恵比寿映像祭2024 月へ行く30の方法」展

教育普及プログラム「色と形と言葉のゲーム」

開催日時：令和6年2月6日（火）14:00～15:00

会場：東京都写真美術館 2階展示室



※



※

※写真 新井孝明



※

「回転アニメーションWebアプリ マジカループ」

教育普及プログラムでは令和3年度にアニメーションを楽しむ学ぶためのデジタル教材「回転アニメーションWebアプリ マジカループ」を開発した。本アプリは、当初より学校の授業での活用を主目的として開発しており、本アプリを使用することで、アニメーション制作の授業を地域格差なく行うことができる。

令和5年度「マジカループ」活用実績利用者数 34,173人

平均エンゲージメント時間 13分29秒（令和5年4月1日～令和6年3月31日現在）

※Googleアナリティクスによる分析



## 東京都写真美術館 教育普及ボランティア

新型コロナウイルス感染症の位置づけが5月に5類感染症へと移行し、3年ぶりにボランティアが関わるすべての活動およびプログラムを対面で実施することができた。一方でblankを経た対面での活動再開に、暗室を利用するプログラムなどの自主研修を行い、フォローアップを図った。

令和5年度も新規ボランティアの募集を行い、12月より新たなボランティアメンバーが加わった。ボランティア全員が各プログラムで円滑かつ自主的に活動できるよう、例年通り制作、鑑賞および社会包摂に関する基礎研修を行った。

また、ユニバーサルサービスの基本についての研修を行い、視覚障害や聴覚障害のある人、車いすを利用している人など、手助けが必要な来館者のサポートについて学んだ。恵比寿映像祭教育普及プログラムでも、ボランティアが主体となって運営する活動に広がりを見せた。令和3年度に開始した「対話型鑑賞会」もまた、初めて対面で実施することができた。

### 1 登録者数

令和4年度からの更新登録者：76名（活動休止者6名：数に含まず）  
新規登録者：11名

### 2 ボランティア活動実績

活用事業実施回数 113回

1ヶ月平均 9.41回

のべ377人

（ただしボランティア研修会をのぞく）

年間一人あたり4.38回

(1) パブリックプログラム活動 16回

(2) スクールプログラム活動 20回

(3) 社会包摂プログラム（クリエイティブ・ウェルビーイング・トークショー） 11回

(4) 恵比寿映像祭での活動 66回

### 3 研修会・連絡会

(1) ボランティア研修会 9回（うち自主研修会3回） のべ参加者数100人

令和5年6月24日（土）ボランティア自主研修会（スタジオ・暗室開放）

令和5年11月5日（日）新規ボランティア研修会 第1回 Aチーム 講師：当館スタッフ

令和5年11月9日（木）新規ボランティア研修会 第1回 Bチーム 講師：当館スタッフ

令和5年11月19日（日）新規ボランティア研修第2回 講師：当館スタッフ

令和5年11月26日（日）新規ボランティア研修第3回 講師：当館スタッフ

令和5年11月26日（日）ボランティア自主研修会（スタジオ・暗室開放）

令和5年12月3日（日）アテンドボランティア研修

令和6年1月20日（日）アテンドボランティア研修

令和6年3月2日（日）ボランティア自主研修会（スタジオ・暗室開放）

(2) ボランティア連絡会 3回 のべ参加者数83人

令和5年6月24日（土）、11月26日（日）、令和6年3月10日（日）



## 博物館実習（学芸員実習）

博物館実習は、博物館法施行規則第1条に基づき、大学において修得すべき博物館に関する科目の一つとされており、登録博物館または博物館相当施設での実習により修得するものとされる。当館の博物館実習（学芸員実習）は大学生を対象に、将来的な学芸員の養成や美術館の仕事への意識啓発を目的として、学芸員を中心とした各部署の業務を体験的に研修してもらう機会である。令和4年度は全日程10日間で実施した。

受入日程：令和5年8月23日（水）～9月8日（金）のうち10日間

受入人数：8名

受入大学：青山学院大学、多摩美術大学、東京大学、東京造形大学、東京工芸大学、千葉大学、日本大学、八洲学園大学

**教育普及事業  
講演会等**

展覧会の理解を深めるためのアーティストトーク等は、ソーシャルディスタンスを考慮し1階ホールや2階ロビーなどで安全に実施するほか、状況に応じてオンラインでも配信した。

**【収蔵展・自主企画展】**

展覧会・事業名	部門	テーマ	開催日	講師・出演等	参加人数
田沼武能 人間讃歌	講演会	「田沼武能を語る」	令和5年7月8日(土)	熊谷博人(装丁家)、多田亜生(編集者)、田沼敦子(田沼武能夫人)	111
本橋成一とロベール・ドアン 交差する物語	アーティスト・トーク	ゲストと出品作家による関連トーク	令和5年6月30日(金)	奈良美智(アーティスト)、本橋成一(出品作家)	146
	講演会	「愛のまなざし、不従従の精神 —— ロベール・ドアンの作品世界」	令和5年8月27日(日)	今橋映子(東京大学大学院 総合文化研究科 教授)	40
	特別映画上映		令和5年7月9日(日)、15日(土)、16日(日)、17日(月・祝)、22日(土)、23日(日)、27日(木)、8月13日(日)、9月17日(日)		317
TOPコレクション 何が見える? 「覗き見る」まなざしの系譜	アーティスト・トーク		令和5年9月9日(土) 令和5年10月15日(日)	石川亮(出品作家)、南俊輔(映像作家) 伊藤隆介(出品作家)、ほかゲストあり	30 26
	講演会	「覗き見る」メディアとイメージをめぐるレクチャー	令和5年9月24日(日)	草原真知子(メディアアート・視覚文化史研究者)、細馬宏通(早稲田大学教授)、橋本典久(プリミティブメディアアーティスト)	40
	ワークショップ	映画のはじまり体験ワークショップ	令和5年8月19日(土)	郷田真理子(フィルム技術者)	40
風景論以後	アーティスト・トーク		令和5年8月25日(金) 令和5年9月30日(土) 令和5年10月9日(月・祝)	笹岡啓子(出品作家)×倉石信乃(明治大学教授、近現代美術史・写真史) 遠藤麻衣子(出品作家)×平沢剛(本展企画協力) 今井祝雄(出品作家)×平沢剛(本展企画協力)	29 33 19
	上映	出品作家による上映	令和5年8月26日(土)、27日(日)	峯利子×とちぎあきら(フィルムアーキビスト)、遠藤麻衣子	215
	上映	風景論をめぐる映画特集	令和5年8月24日(木)、10月6日(金)、7日(土)、8日(日)、9日(月・祝)、12日(木)、13日(金)	キュレーター: 平沢剛 アフタートーク・ゲスト: 山崎裕(出品作家、撮影監督)、後藤和夫(出品作家、映像作家)、原将人(出品作家)、足立正生(出品作家)	512
	アーティスト・トーク	出品作家とゲストによる対談	令和5年12月17日(日)	ホンマタカシ(出品作家)、坂保健二朗(滋賀県立美術館ディレクター)	178
	アーティスト・トーク	出品作家とゲストによる対談 TOKYO ART BOOK FAIR 2023トークイベント『「即興 ホンマタカシ」展関連トーク: 即興、そして写真集の数々』	令和6年1月20日(土) 令和5年11月26日(日)	ホンマタカシ(出品作家)、長島有里枝(写真家) ホンマタカシ(写真家)×中島佑介(「POST」代表)×濱中敦史(「twelvebooks」代表)	190 112
即興 ホンマタカシ	ワークショップ	出品作家による連続ワークショップ(全6回)	令和5年10月14日(土)、29日(日)、11月11日(土)、25日(土)、12月16日(土)、令和6年1月13日(土)	ホンマタカシ(写真家)	41
	上映	ホンマタカシ映像作品特集上映	令和5年10月14日(土)、15日(日)、11月18日(土)、19日(日)、12月16日(土)、17日(日)、令和6年1月6日(土)、7日(日)、16日(火)、17日(水)、18日(木)、19日(金)、20日(土)、21日(日)		1,621
見るまえに跳べ 日本の新進作家vol.20	アーティスト・トーク	出品作家とゲストによる対談	令和5年12月23日(土) 令和5年12月26日(火) 令和6年1月8日(月・祝)	うつゆみこ(出品作家)×飯沢耕太郎(写真評論家)、山上新平(出品作家)×竹内万里子(批評家・作家) 戦争の結婚式からの「こたつトーク」 夢無子(出品作家)×宮沢りえ(俳優)×田辺俊彦(クリエイティブ・ディレクター) 星玄人(出品作家)×飯沢耕太郎(写真評論家)、淵上裕太(出品作家)×浜崎加織(本展企画者/前・当館学芸員)	64 95 45
	シンポジウム	[日仏会館共催企画] MOONAGEとテクノロジー・アート @日仏会館ホール	令和6年2月6日(火)	[パネリスト] 畠中実(NTTインターコミュニケーション・センター [ICC] 主任学芸員)、クリストフ・シャルル(武蔵野美術大学教授)[モデレーター] 藤原邦一(日仏会館 学術・文化事業委員会委員、(株)藤原プロデュース代表)、藤村里美(当館学芸員)	29
	シンポジウム	コミッション・プロジェクト——委嘱制作と映像制作の可能性	令和6年2月15日(木)	[パネリスト] 沖啓介(メディア・アーティスト)、斉藤綾子(映画研究者、明治学院大学教授)、レオナルド・バルトロメウス(山口情報芸術センター [YCAM]、Gudskul Ekosistemキュレーター)、メー・アーダドン・インカウニット(映画・メディア研究者、キュレーター、ウェストミンスター大学教授)、田坂博子(当館学芸員・恵比寿映像祭キュレーター)[進行] 堀内奈穂子(特定非営利活動法人アーツニシアティヴトウキョウ [AIT/ エイト])	30
恵比寿映像祭2024 月へ行く30の方法		台湾映画の修復・保存および台湾新浪潮の受容の現在	令和6年2月17日(土)	[パネリスト] 張怡蓁 チャン・イー・ジェン(台湾國家電影及視聽文化中心 修復・保存研究員)、孫松榮 スン・ソンロン(キュレーター、国立台北芸術大学教授)、近藤健一(森美術館 シニア・キュレーター)	72
	トークセッション	[CCBT連携企画] Poems in Code——ジェネラティブ・アートの現在	令和6年2月3日(土)	[スピーカー] セオ・ヒョジョン(アーティスト)、高尾俊介(アーティスト、ジェネラティブアート振興財団代表理事) [モデレーター] 廣田ふみ(シビック・クリエイティブ・ベース東京)	73
教育普及プログラム		だれもが楽しめる「やさしい」見どころガイド			
		手話通訳付き「たのしい」ギャラリートัวร์	令和6年2月8日(木)・11日(日)	兼平彦太郎(恵比寿映像祭2024共同キュレーター)、田坂博子(当館学芸員・恵比寿映像祭2024キュレーター)	42
		TOPボランティアによる「展示会場アテンド」	令和6年2月8日(木)・9日(金)	当館ボランティア	9
		「縁試し」きょうのあなたにピッタリな作品は?	令和6年2月18日(日)		
	TOPボランティアによるアニメーション・オープンワークショップ	令和6年2月17日(土)	当館ボランティア	29	

展覧会・事業名	部門	テーマ	開催日	講師・出演等	参加人数
恵比寿映像祭2024 月へ行く30の方法	教育普及プログラム	ワークショップ「みつける!!恵比寿映像祭!」	令和6年2月4日(日)、11日(日)	北川貴好(美術家、みつける写真道場師範)	130
		今日の気持ちを写真にしよう〜フォトグラムで感じる意識のながれ〜	令和6年2月10日(土)		10
		色と形と言葉のゲーム	令和6年2月6日(火)		20
記憶：リメンブランス—現代写真・映像の表現から	アーティスト・トーク		令和6年3月2日(土)	米田知子(出品作家)×マルヤ・ピリラ(出品作家)	69
参加人数合計 4,417人					

## 【誘致展】

展覧会・事業名	部門	テーマ	開催日	講師・出演等	参加人数
土門拳の古寺巡礼	記念講演会	土門の撮影助手・藤森武が語る「土門拳と古寺巡礼」	令和5年5月15日(土)	藤森武氏(写真家/土門拳記念館 理事)	172
	特別対談	内弟子が語る「古寺巡礼」	令和5年5月6日(土)	講師 藤森武氏(写真家/土門拳記念館 理事)×堤勝雄氏(写真家/土門拳記念館 理事) モデレーター 田中耕太郎氏(土門拳記念館 学芸員)	180
参加人数合計 352人					

## 動画配信

在宅でも展覧会を楽しんでいただくため、動画配信を積極的に推進した。

展覧会・事業名	内容	講師等	視聴回数*
深瀬昌久 1961-1991 レトロスペクティブ	ニコニコ美術館		12,083
	代表作品を紹介するPR動画		3,533
	深瀬昌久 作家活動30年の軌跡	トモ・コスガ(深瀬昌久アーカイブス、ディレクター)	6,005
TOPコレクション セレンディビティ 日常のなかの予期せぬ素敵な発見	ニコニコ美術館		12,083
「本橋成一とロベール・ドアノー 交差する物語」	ニコニコ美術館		15,425
	アトリエ・ロベール・ドアノー インタビュー		1,079
	作家インタビュー	本橋成一(出品作家)	1,532
TOPコレクション 何が見える?「覗き見る」まなざしの系譜	ニコニコ美術館		15,425
	展示風景		1,746
即興 ホンマタカシ	ニコニコ美術館		13,339
	展示風景		5,160
見る前に跳べ 日本の新進作家展vol.20	ニコニコ美術館		13,339
恵比寿映像祭2024 月へ行く30の方法	ニコニコ美術館		12,009

## ギャラリートーク

### 【収蔵展・自主企画展】

展覧会会期中には、出品作家や担当学芸員による展示解説を行った。

展覧会	開催日	講師等	参加人数
TOPコレクション セレンディビティ 日常のなかの予期せぬ素敵な発見	令和5年5月19日(金)、6月16日(金)	武内厚子(担当学芸員)	48
田沼武能 人間讃歌	令和5年6月9日(金)、7月14日(金)	関次和子(担当学芸員)	69
本橋成一とロベール・ドアノー 交差する物語	令和5年6月23日(金)、8月4日(金)、9月1日(金)	山田裕理(担当学芸員)	81
TOPコレクション 何が見える?「覗き見る」まなざしの系譜	令和5年7月21日(金)、8月18日(金)、9月15日(金)、10月13日(金)	遠藤みゆき(担当学芸員)	92
風景論以後	令和5年8月11日(金・祝)、9月8日(金)、11月3日(金)	田坂博子(担当学芸員)	135
即興 ホンマタカシ	令和5年10月27日(金)、12月1日(金)、令和6年1月5日(金)	伊藤貴弘(担当学芸員)	134
見るまえに跳べ 日本の新進作家vol.20	令和5年11月10日(金)、12月15日(金)、令和6年1月19日(金)	浜崎加織(担当学芸員)	78
記憶：リメンブランス—現代写真・映像の表現から	令和6年3月1日(金)	関昭郎(担当学芸員)	21
参加人数合計 658人			

### 収集の基本方針

平成元(1989)年2月3日(昭和63年度)策定

写真作品(オリジナル・プリント)を中心に、写真文化を理解する上で必要なものを、幅広く収集する。

#### [写真作品]

- 1.国際的な視野に立って、国内外の芸術性、文化性の高い作品を幅広く収集する。
- 2.写真の発生から現代まで、写真史のうえで重要な国内外の作家・作品を幅広く、体系的に収集する。
- 3.歴史的に評価の定まった作品を重視するとともに、各種の展覧会等で高い評価を受けた作家・作品発掘に努め、現代から未来を展望した収集を行う。
- 4.東京を表現、記録した国内外の写真作品を収集する。
- 5.日本の代表的作家については重点的に収集し、その作家の創作活動の全体像を表現し得る点数を収集する。
- 6.基本方針「写真作品」5.に基づき作品を収集した第一期重点収集作家(17名、五十音順)秋山庄太郎、石元泰博、植田正治、川田喜久治、木村伊兵衛、桑原甲子雄、白川義員、土田ヒロミ、東松照明、長野重一、奈良原一高、濱谷浩、林忠彦、藤原新也、細江英公、森山大道、渡辺義雄

#### [写真資料]

- 1.出版物(写真集、専門書、雑誌)については、写真文化に関するものを歴史的、系統的に収集する。
- 2.ネガフィルムの種類については、作家・作品研究などに必要と考えられるものを収集する。
- 3.ポスターなど、写真展の付属資料(図録、チケット等)を収集する。
- 4.その他、作家や作品の関連資料、周辺資料を適宜収集する。

#### [写真機材類]

- 1.写真の原理と発掘の歴史、ソフトとハードの接点を理解させる展示に必要なものを収集する。
- 2.体験学習などの事業活動に必要なものを収集する。

#### [映像資料]

- 1.映像文化史を展示するのに必要な映像資料を系統的に収集する。
- 2.体験型の展示を行うため、映像装置などのレプリカや模型を計画的に製作する。
- 3.日本およびアジアの映像文化史についての調査研究を進め、重要な映像資料を収集する。
- 4.各映像ジャンルの代表的な映像資料および芸術価値の高い作品を収集する。

#### [作品収集の目標]

- 1.長期収集計画 7万5千点以上  
内訳:写真作品(国内・海外50,000点以上、写真作品以外の資料25,000点以上)

### 写真作品収集の指針 平成18(2006)年11月13日策定

- 1.写真作品収集の基本方針に則り、写真美術館コレクションをより充実させる。
- 2.黎明期の写真のように、希少的価値のある作品を積極的に収集する。
- 3.写真史において重要な役割を果たした歴史的作家の作品を体系的に収集する。
- 4.1980年代以降に評価の定まった作家作品を充実させる。
- 5.日本の新進作家展で取り上げた作家や国内外の主要な賞を受賞した作家、国内外の主要美術館における主要展覧会において取り上げられた作家など、若手作家の作品を収集する。
- 6.写真美術館の展覧会(自主展、収蔵展)で取り上げた作家作品を収集する。
- 7.基本方針「写真作品」5.に基づく新規重点作家の設定
  - (1)日本を代表する作家であること
  - (2)国内外で評価が高いこと
  - (3)日本の写真の一分野を代表する作家であること
  - (4)国内外の主要美術館で作品が収集され個展が開催されていること
  - (5)現在おおよそ40代、50代、60代の作家を目安にする
  - (6)収集にあたっては、現在の収集予算および市場価格の高騰を鑑み、購入及び寄贈により約200点の収蔵を目指す
  - (7)重点作家については、国内外の写真・美術の動向を鑑み随時見直しをする
- 8.写真作品収集の新指針7に基づく第二期重点収集作家(21人、五十音順)荒木経惟、石内都、オノデラユキ、北井一夫、北島敬三、小山穂太郎、佐藤時啓、篠山紀信、柴田敏雄、杉本博司、鈴木清、須田一政、高梨豊、田村彰英、畠山直哉、深瀬昌久、古屋誠一、宮本隆司、森村泰昌、やなぎみわ、山崎博
- 9.写真作品収集の新指針7に基づく第三期重点収集作家(14人、五十音順)、平成30(2018)年11月21日策定  
江成常夫、尾仲浩二、金村修、川内倫子、鬼海弘雄、鈴木理策、瀬戸正人、鷹野隆大、長島有里枝、ホンマタカシ、松江泰治、宮崎学、本橋成一、米田知子

## 令和5年度 東京都写真美術館 作品資料収集方針

### I 東京都購入

#### 1 購入作家及び点数

19作家 116点

#### 2 考え方

東京都写真美術館「収集の基本方針」に基づき策定した「令和5年度東京都写真美術館における収蔵品購入に関する方針」に基づき、以下の作品収集を行う。なお、令和5年度及び6年度展覧会出品作家作品を計画的に収集し、質の高い展覧会事業を実現する。

(1) 国内外の主要な賞を受賞した作家、国内外の主要展覧会において取り上げられた作家の作品など、活躍の著しい新進作家の写真・映像作品を収集する。

・令和5年度「日本の新進作家vol.20」出品作家 5作家  
うつゆみこ、淵上裕太、星玄人、山上新平、夢無子  
・活躍の著しいミドルキャリア写真家  
藤岡亜弥

(2) 写真作品について、以下を踏まえて作品の収集を図る。

- ・日本を代表する作家であること。
- ・国内外での評価が高い作家であること。
- ・日本における写真の一分野を代表する作家であること。
- ・国内外の主要美術館で作品が収集され個展が開催されている作家であること。

・第三期重点収集作家 ホンマタカシ、米田知子  
・海外を拠点に活動し、国際的にも再評価の高い作家  
杉浦邦恵

(3) 東京都写真美術館の展覧会で取り上げる作家の写真・映像作品等、美術館活動に資する作品を収集する。

・令和5年度映像展「風景論以後」出品作家 笹岡啓子  
・令和6年度自主企画展「アレック・ソス」出品作家  
アレック・ソス  
・令和6年収蔵展「見るといふこと」出品作品  
ロバート・アダムス、チェン・ウェイ、スコット・ハイド

(4) 映像作品・資料について、以下を踏まえて収集を図る。

- ・国内外で評価の高い作家・作品であること。
- ・各映像ジャンルの代表的な作品であること。
- ・映像表現及び技術等の映像史において重要な役割を果たした作品であること。

・令和5年度収蔵展「TOPコレクション 何が見える？」出品作家 石川亮  
・令和5年度恵比寿映像祭出品作家 ジョアンナ・ピオト  
トロフスカ  
・令和5年度自主企画展「記憶：リメンブランス」出品作品  
マルヤ・ピリラ

### II 東京都写真美術館購入

#### 1 購入作家及び点数

4作家 40点

#### 2 考え方

「令和5年度東京都写真美術館における収蔵品購入に関する方針」に基づき、以下の作品収集を行う。

(1) 写真作品について、以下を踏まえて作品の収集を図る。

- ・日本を代表する作家であること。
- ・国内外での評価が高い作家であること。
- ・日本における写真の一分野を代表する作家であること。
- ・国内外の主要美術館で作品が収集され、個展が開催されている作家。

・1990年代以降評価が高く、当館のコレクション充実に必要な作家作品  
潮田登久子、百々俊二

(2) 東京都写真美術館の展覧会で取り上げた作家の写真・映像作品等、東京都写真美術館の美術館活動に資する作品を収集する。

・令和5年度収蔵展「TOPコレクション セレンディピティ」展出品作品  
奈良美智

(3) 写真・映像史の上で重要な国内外の作家・作品を幅広く体系的に収集するとともに、希少的価値のある作品を積極的に収集する。

・現代写真史上で重要かつ希少性の高い写真作品  
山中信夫

### III 寄贈

#### 1 寄贈作家及び点数

30作家 381点

#### 2 考え方

展覧会開催及び作品購入に伴う寄贈、当館のコレクション充実に資する作品

### IV 寄託

#### 1 寄託作家及び点数

1作家 21点

#### 2 考え方

当館のコレクション展充実及び調査研究に資する作品

**作品収集実績**

令和5年度収集点数：537点

【内訳】国内写真作品：344点 海外写真作品：21点 映像作品資料：12点 写真資料：160点

東京都写真美術館コレクション点数37,849点

【内訳】国内写真作品：25,097点 海外写真作品：6,087点 映像作品資料 2,607点 写真資料：4,058点

**【東京都購入作品】**

作家名	作品名/シリーズ名等	技法	サイズ(mm)/尺	制作年	点数	備考
うつゆみこ	《岡崎おうはんコンゴウインコ》他	インクジェット・プリント	750×1000他	2022 他	9	令和5年度「日本の新進作家vol.20」出品作品
笹岡啓子	《PARK CITY》より	ゼラチン・シルバー・プリント 他	315×315他	2001-09 他	13	令和5年度「風景論以後」出品作品
杉浦邦恵	《Stacks Tulips A5 Positive》他	ゼラチン・シルバー・プリント	1030×775 他	1995	3	恵比寿映像祭2023出品作品
藤岡亜弥	《川はゆく》より	発色現像方式印画	457×560	2013-17	10	令和6年度以降コレクション展での活用
淵上裕太	《上野公園》より	ゼラチン・シルバー・プリント 他	355×279他	2023 他	25	令和5年度「日本の新進作家vol.20」出品作品
星玄人	《街の火》より	ゼラチン・シルバー・プリント	508×610	2002 他	10	令和5年度「日本の新進作家vol.20」出品作品
ホンマタカン	《Thirty-Six Views of Mount Fuji》より	発色現像方式印画	1000×762	2023	7	令和5年度「即興 ホンマタカン」展出品作品
山上新平	《Epiphany》より	インクジェット・プリント	429×285	2018-21	16	令和5年度「日本の新進作家vol.20」出品作品
米田知子	《(未) 完成の風景II》他	発色現像方式印画	665×1000	2015/2023 他	4	令和5年度「記憶：リメンブランス」展出品作品
ロバート・アダムス	《Dead Palms, Partially Uprooted, Ontario, 1983》他	ゼラチン・シルバー・プリント	229×268 他	1983 他	2	令和6年度収蔵展出品予定作品
ジョアンナ・ピオトロフスカ	《Untitled》他	ゼラチン・シルバー・プリント	1200×950 他	2017 他	2	恵比寿映像祭2024出品作品
アレック・ソス	《I Know How Furiously Your Heart is Beating》他	インクジェット・プリント	1270×1016	2017	3	令和6年度「アレック・ソス」展出品予定作品
チェン・ウェイ	《In the Waves #5》他	インクジェット・プリント	1500×1875 他	2013 他	3	令和6年度収蔵展出品予定作品
スコット・ハイド	《Untitled (Cityscape)》他	オフセット印刷	197×140 他	1970 他	2	令和6年度収蔵展出品予定作品
マルヤ・ピリラ	《カメラ・オブスクラ/ルース》ほか、《インナー・ランドスケープス、トゥルク》より	インクジェット・プリント	940×780他	2011	2	令和5年度「記憶：リメンブランス」展出品作品
石川亮	《かもめ》	35ミリフィルム、サイレント、カラー	ループ	2018	1	令和5年度「TOPコレクション 何が見える？」展出品作品
大島渚	《東京戦争戦後秘話》	4K(本編) [予告編(35ミリフィルム)を含む]	白黒、94分	1970	1	令和5年度「風景論以後」出品作品
夢無子	《戦争だから結婚しよう 第一章》他	シングルチャンネル・ビデオ、フルHD、サウンド	16分26秒	2023	2	令和5年度「日本の新進作家vol.20」出品作品
ジョアンナ・ピオトロフスカ	《Animal Enrichment》	HDビデオ(オリジナル16ミリフィルム)	3分8秒	2019	1	恵比寿映像祭2024出品作品
合計					116	

**【東京都写真美術館購入作品】**

作家名	作品名/シリーズ名等	技法	サイズ(mm)/尺	制作年	点数	備考
潮田登久子	《冷蔵庫/ICE BOX》より	ゼラチン・シルバー・プリント	330×330	1981-98	16	令和6年度以降コレクション展での活用
百々俊二	《新世界 むかしも今も》より	ゼラチン・シルバー・プリント	190×285	1982-85	20	令和6年度以降コレクション展での活用
奈良美智	《Hello World (left); Hello World (right)》	インクジェット・プリント	各450×450(2点組)	2003-12	1	令和5年度「TOPコレクション セレンディピティ」展出品作品
山中信夫	《マンハッタン太陽》より	発色現像方式印画	204×254	1980	3	令和6年度以降コレクション展での活用
合計					40	

\*東京都写真美術館購入作品については、委員会で購入決定後、東京都歴史文化財団から東京都に寄贈する。

【寄贈作品】

作家名	作品名/シリーズ名等	技法	サイズ(mm)/尺	制作年	点数	備考
飯田鉄	《饗宴》より	発色現像方式印画	420×540	c.1989	1	
尾仲浩二	《フランスの犬》より	ゼラチン・シルバー・プリント	132×201	1992	5	
澤田華	《仮固定のポジション(白い薔薇)》他	ゼラチン・シルバー・プリント 他	81.6×94 他	2022	6	令和4年度「日本の新進作家vol.19」 展出品作品
白川義員	《南極大陸》より	発色現像方式印画	230×330	c.1991-93	5	作家遺族からの寄贈
杉浦邦恵	《Joints Jointed for Kawasaki》他	ゼラチン・シルバー・プリント 他	4760×520	1995	1	購入に伴う寄贈
須田一政	《無名の男女、東京・1976～8年》《民謡山河》より	ゼラチン・シルバー・プリント	193×193他	1976-78	5	
田中長徳	《題不詳》	ゼラチン・シルバー・プリント	324×220	不詳	1	
田村栄	《昆虫の生態》《多摩川の鳥》より	ゼラチン・シルバー・プリント	160×214 他	1951-58	2	作家遺族からの寄贈
土田ヒロミ	《砂を数える》《俗神》より	ゼラチン・シルバー・プリント	159×299他	1969-76	8	
百々俊二	《新世界劇場》《新世界 むかしも今も》より	ゼラチン・シルバー・プリント	268×180他	1969-85	20	購入に伴う寄贈
植橋朝子	《アフタ・フニフニ》	発色現像方式印画	375×560	2003	1	
野口里佳	《潜る人#3》他	発色現像方式印画	990×2160他	1995他	5	令和4年度「野口里佳 不思議な力」 展出品作品
浜田涼	《not special》より	ミクスト・メディア	520×770	1996	33	令和6年度以降コレクション展での 活用
原美樹子	《雲間のあとさき》	発色現像方式印画	263×263	2007	1	
細江賢治	《誰も知らない》《決定的瞬間》より	ゼラチン・シルバー・プリント	110×147他	1994-2004	4	
南良和	《秩父》より	ゼラチン・シルバー・プリント	335×225他	1954-62	10	
山下恒夫	《もうひとつの島の時間》より	ゼラチン・シルバー・プリント	143×213他	1983-2008	99	
オサム・ジェームス・ナカガワ	《Remains》より	インクジェット・プリント	175×234他	2006	1	
マルヤ・ピリラ	《カメラ・オブスクラ/イングリッド》ほか、 《インナー・ランドスケープス、トゥルク》 より	インクジェット・プリント	570×1820 他	2011	6	購入に伴う寄贈
石元泰博	《シカゴ、シカゴ》より	ゼラチン・シルバー・プリント	495×775	1948-52	1	令和6年度以降コレクション展での 活用
作家不詳	野外撮影用機材(木製組立暗箱、三脚、 ソルトトン・シャッター)、修整台、金属 製組立暗箱	その他の技法	木製組立暗箱 230×210×300他	c.1926-86	3	令和6年度以降コレクション展での 活用
佐藤元洋	《家》《春はやみ》より 他	ゼラチン・シルバー・プリント	243×169 他	1970 他	155	作家遺族からの寄贈
松崎晋二	《台湾日誌》	その他の技法	181×82×15	c.1874	1	
荒木悠	《仮面の正体(海賊盤)》	ダブルチャンネル・ ビデオ・インスタレーション		2023	1	恵比寿映像祭2023コミッション・プ ロジェクト出品作品
大木裕之	《meta dramatic 劇的》	ビデオ・インスタレーション		2023	1	恵比寿映像祭2023コミッション・プ ロジェクト出品作品
金仁淑	《Eye to Eye, 恵比寿映像祭2023 Ver.》	10チャンネル・ビデオ・ インスタレーション		2023	1	恵比寿映像祭2023コミッション・プ ロジェクト出品作品
杉浦邦恵	《Patient Zero- Bowelman- Tie or not》	シングルチャンネル・ビデオ		2020-21	1	購入に伴う寄贈
葉山嶺	《Hollow-Hare-Wallaby》	シングルチャンネル・ビデオ、 ステレオ	16分37秒	2023	1	恵比寿映像祭2023コミッション・プ ロジェクト出品作品
American Optical Co.	スライド・プロジェクター 《GK Delineascope》	その他の技法	250×858×205	c.1970-82	1	令和6年度以降コレクション展での 活用
タマシュ・ヴァリツキー	《パラパラ式プロジェクター》 《想像のカメラ》より	シングルチャンネル・ビデオ	1分20秒、ループ	2017	1	令和4年度購入に伴う寄贈
合計					381	

【寄託作品】

作家名	作品名/シリーズ名等	技法	サイズ(mm)/尺	制作年	点数	備考
中山岩太	《アメリカ風景(ハクチョウ)》他	ゼラチン・シルバー・プリント	569×356 他	c.1920-	21	平成20年「蘇る中山岩太」展出品 作品

# 令和5年度新収蔵作品の紹介

## 東京都購入案件



うつゆみこ 《岡崎おうはんコンゴウインコ》 2022年 インクジェット・プリント



笹岡啓子 〈PARK CITY〉より 2001-2009年 ゼラチン・シルバー・プリント



杉浦邦恵 〈Stacks Tulips〉より 1995年 ゼラチン・シルバー・プリント



藤岡亜弥 〈川はゆく〉より 2013-2017年 発色現像方式印画



淵上裕太 〈上野公園〉より 2020年 発色現像方式印画



星玄人 〈街の火〉より 2001年 ゼラチン・シルバー・プリント



ホンマタカシ 〈Thirty-Six Views of Mount Fuji〉より 《mount FUJI 14/36》  
2018年 発色現像方式印画



山上新平 〈Epiphany〉より 2019年 インクジェット・プリント



米田知子 〈DMZ〉より 《(未)完成の風景II》 2015/2023年 発色現像方式印画



ロバート・アダムス 《Dead Palms, Partially Uprooted, Ontario, 1983》 1983年  
ゼラチン・シルバー・プリント



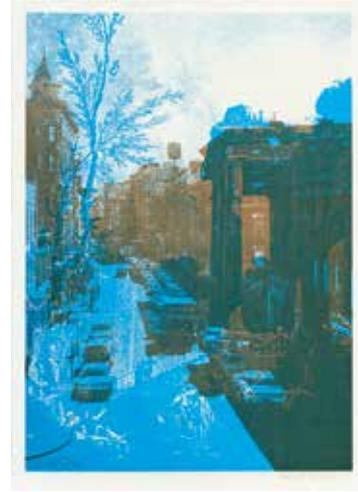
ジョアンナ・ピオトロフスカ 《Untitled》 2017年 ゼラチン・シルバー・プリント



アレック・ソス 〈I Know How Furiously Your Heart is Beating〉より  
《Anna, Kentfield, California.》 2017年 インクジェット・プリント



チェン・ウェイ 《New Station - if on a winter's night》 2020年  
インクジェット・プリント



スコット・ハイド 《Untitled (Cityscape)》 1970年 オフセット印刷



マルヤ・ピリラ 〈インナー・ランドスケープス、トゥルク〉より 《カメラ・オブスクラ/  
ルース》 2011年 インクジェット・プリント



石川亮 《かもめ》 2018年 35ミリフィルム、サイレント、カラー



大島渚 《東京戦争戦後秘話》 1970年 4K(本編)



夢無子 〈戦争だから、結婚しよう!〉より 2023年  
シングルチャンネル・ビデオ、フルHD、サウンド



ジョアンナ・ピオトロフスカ 《Animal Enrichment》 2019年  
HDビデオ (オリジナル16ミリフィルム)

東京都写真美術館購入案件



潮田登久子 〈冷蔵庫/ICE BOX〉より 《東京都世田谷区 1998年》 1998  
ゼラチン・シルバー・プリント



百々俊二 〈新世界 むかしも今も〉より 《阿倍野区旭町商店街》 1983年 ゼラチン・  
シルバー・プリント



奈良美智 〈days 2003-2012〉より 《Hello World (left); Hello World (right)》  
2003-2012年 インクジェット・プリント



山中信夫 〈東京の太陽〉より 《東京の太陽 (14)》 1981年 発色現像方式印画

**【東京都写真美術館図録論文】**

**伊藤貴弘**

「前もって見ることができない——ホンマタカシの〈THE NARCISSISTIC CITY〉について」『即興 ホンマタカシ』展図録、東京都写真美術館、2023年、pp.202-208

**遠藤みゆき**

「覗き見る装置とまなざしの系譜」『TOPコレクション 何が見える？「覗き見る」まなざしの系譜』展図録、東京都写真美術館、2023年、pp.130-133

**関昭郎**

「記憶の文法」『記憶：リメンブランス—現代写真・映像の表現から』展図録、東京都写真美術館、2024年、pp.134-142

**関次和子**

「人間讃歌 田沼武能」『田沼武能 人間讃歌』展図録、東京都写真美術館、2023年、pp.219-222

**武内厚子**

「ジョビンとマギーの素敵な探検」、「偶然と才気によって探してもいなかったものを発見する—セレンディピティ」『TOPコレクションセレンディピティ 日常の中の予期せぬ発見』展図録、東京都写真美術館、2023年、pp.9-26、pp.106-111

**田坂博子**

「風景論以後」『風景論以後』展図録、東京都写真美術館、2023、pp.8-15

**多田かおり**

「絵画と数理による創発」『記憶：リメンブランス—現代写真・映像の表現から』展図録、東京都写真美術館、2024年、pp.145-147

**浜崎加織**

「わたしたちは見るまゑに跳べるか」『見るまゑに跳べ 日本の新進作家vol.20』展図録、東京都写真美術館、2023年、pp.18-23

**山田裕理**

「本橋成一とロベール・ドアノー 交差する物語」『本橋成一とロベール・ドアノー 交差する物語』展図録、東京都写真美術館、2023年、pp.212-217

**【東京都写真美術館紀要No.23】**

**石田哲朗**

「ここにいる、どこまで遠くにいけるか—野口里佳 不思議な力」展アーティストトーク pp.9-29

**室井萌々**

「詩の中にある表現をめぐって——エルンスト・ハースと日本」pp.31-39

**【寄稿等】**

**石田哲朗**

「ぼんやりした写真 浜田涼の表現について」『とぼとぼ 浜田涼』赤々舎、2023年、ノンプルなし

**伊藤貴弘**

「世界に差し込む光——鈴木敦子の写真について」鈴木敦子『Appear』edition.nord、2023年、n. pag.

「特別な輝き：チェ・ヨハンの作品について」『Photography, Seoul Museum of Art Pre-opening Program The Portfolio, Seoul』ソウル市文化本部、2024年、pp.173-175

**遠藤みゆき**

「写真メディアの現在地『見るは触れる 日本の新進作家vol.19』より」（特集：フォトグラフィック・アート——技術と芸術のあいだ）『美術フォーラム21』第47号、2023年、pp.104-109

**鈴木佳子**

インタビュー「Les Voix de la photo #92 YOSHIKO SUZUKI」、ポッドキャスト、フランス、聞き手：Marine Lefort、2023年

**関次和子**

「写真との出会いの場 キヤノンギャラリー開設50周年に寄せて」『写真、そして紡がれる物語』2023年、キヤノンマーケティングジャパン、p.31

「ヒューマニズムを追い求めて70年 田沼武能 人間讃歌」『公明新聞』、2023年7月5日

「自然写真家・今森光彦 里山へのまなざし」『今森光彦 里山 水の匂いのするところ』図録、滋賀県立美術館、2023年、pp.106-121

「山岳写真家・岩橋崇至の仕事」『岩橋永遠・岩橋崇至 ふたりのまなざし』図録、相模原市民ギャラリー、2023年 pp.10-13

「中西敏貴 自然の造形」『オプタテシケ』、2023年、Case Publishing、p.105

**武内厚子**

「教美アートギャラリー（13回）東京都写真美術館」『教育美術』第974号 2023年8月、p.8

**多田かおり**

「マーティーン・シムズ」（特集：世界のアーティスト2024）『美術手

帖』2024年4月号、pp.40-41

### 田坂博子

『ナンセンス≠ロジックと形式(フォーム)』(外島貴幸作品集刊行記念トーク集)、2023年

### 浜崎加織

「日本の新進作家展vol.20 見るまゑに跳べ」『写真』vol.5「フェイス/Face」、2024年1月20日発行、ふげん社、pp.146-147

「#98 東京都写真美術館と日本の新進作家について(写真家うつゆみこととの対談)」「そろそろ美術の話を…」、聞き手:アートテラー・とに〜、2024年1月6日配信、ポッドキャスト

「フォトグラファー生存戦略 vol.14 浜崎加織×黒田明臣 「見る前に跳べ」」『コマースナル・フォト』2024年2月号(2024年1月15日発行)、玄光社、pp.116-119

「Interview アートの子カラ 同時代の作家と伴奏するキュレーション 学芸員 浜崎加織」『武蔵美通信』2024年2月号、2024年2月1日発行、武蔵野美術大学造形学部通信教育課程、pp.1-5

### 山口孝子

「2022年の写真の進歩、6. 画像保存-展示・修復・保存関係」、『日本写真学会誌』第86巻第3号、一般社団法人日本写真学会、2023年、pp.235-237.

「インタビュー 日本の現代写真を語る」、金子隆一、飯沢耕太郎編、梓出版社、2023年、pp.279-283.

### 山田裕理

「座談会:大西みつぐ、タカザワケンジ、山田裕理」『写真』vol.4「テロワール/Terroir」、2023年7月20日発行、pp.197-202

「静けさの中にある眼差し」『ayaka endo -when I see you, you are luminous』Tokyo International Gallery、2023年7月

「片山真理個展『CAVERN』プレスリリース」、GALLERY ETHER、2023年

「『本橋成一とロベール・ドアノー 交差する物語』展を振り返って」『神奈川大学評論』104号、神奈川大学評論、2023年12月、pp.119-123

## 【学会発表】

### 遠藤みゆき

展覧会報告「TOPコレクション 何が見える? 『覗き見る』まなざしの系譜」、研究発表「日本におけるステレオ写真受容史の試み」明治美術学会 研究発表会、早稲田大学戸山キャンパス、2023年12月16日

## 【講演会・シンポジウム等】

### 石田哲朗

T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO「特別上映会:山崎博作品集+《山崎博の海》上映&トーク」(登壇者:萩原朔美、石田哲朗) 国立映画アーカイブ小ホール、2023年10月21日

「山本糾『発光する場』関連企画トークイベント」(登壇者:山本糾、石田哲朗) ANOMALY、2023年12月9日

### 伊藤貴弘

「磯谷博史/復元の、複数」展トークイベント、POST、2023年7月22日

「吉田志穂写真展『この窓から見えるものが変わったとしても』」トークイベント、2023年11月17日

「学芸員×アートディレクター『写真を見る目を養うヒント』」Wab Design、2024年1月19日(オンライン配信)

### 遠藤みゆき

研究会「メディア考古学の現在」(登壇者:第一部 遠藤みゆき、城一裕、第二部 太田純貴、梅田拓也、大久保遼、今関裕太、第三部 宮崎申太郎)九州大学大学院芸術工学研究院、2023年8月1日

### 武内厚子

新潟県下越美術教育研究会 第64回夏季実技講習会 講師「つくる・まわす・つたえあう マジカループの実践紹介と実技研修」、新潟市天寿園 大広間、2023年8月5日

トークセッション 「地域の文化資源を活用したインクルーシブ・ワークショップの実践」(登壇者:林建太、井戸本将義、武内厚子、森山緑、石本華江、本間友、渡部葉子)、慶應義塾大学 三田キャンパス 北館ホール、2024年1月27日

### 田坂博子

外島貴幸作品集刊行記念トーク・イベント、元「清水屋クリーニング」、2023年5月21日

エドワード・ヤン「The Cinematic Art of Edward Yang (エドワード・ヤンの映画芸術)」展関連国際フォーラム「Cinema at the Museum (美術館の映画)」、台北市立美術館(TFAM)、2023年7月22日

追手門学院大学社会学部芸術文化事業講義「風景の変容」、茨木市福祉文化会館、2024年1月6日

### 山口孝子

第115回JADS(アート・ドキュメンテーション学会)研究会「東京都写真美術館における写真の保存と活用」、「東京都写真美術館における写真の保存の実際」、2023年9月10日。

国立国会図書館 第34回保存フォーラム「フィルムと写真-劣化のしくみと保存対策-」、「東京都写真美術館における写真の保存」、2023年12月13日~2024年1月16日(オンライン録画配信)

みんなく創設50周年記念国際シンポジウム「博物館における資料保存の過去、現在、そして未来」、「写真資料の保存の歴史と実践」、2024年2月11日

第115回JADS (アート・ドキュメンテーション学会) 研究会「東京都写真美術館における写真の保存と活用」、「東京都写真美術館における写真の保存の実際」、2023年9月10日

### 山崎香穂

第115回JADS (アート・ドキュメンテーション学会) 研究会「東京都写真美術館における写真の保存と活用」、「東京都写真美術館における写真の保存の実際」、2023年9月10日

### 山田裕理

「ギャラリートーク：残間奈津子×山田裕理」、POETIC SCAPES、2023年6月24日

「アートトーク life actually, 日本の現代女性作家」(モデレーター：エレイン W. Ng.、ゲスト：笠原美智子、山田裕理) Tokyo Gendai、パシフィコ横浜、2023年7月9日

「御苗場ポートフォリオ・レビュー」レビュアー、御苗場2023 72gallery、2023年8月19日

「Screening Dialogue in Asia」(モデレーター：杉田モモ、パネル：金仁淑、キム・ウジン、山田裕理)、Knots for the Arts、元映画館、2023年8月20日

「Screening Dialogue in Asia インタビュー」Knots for the Arts、オンライン配信

「写真研究所展 公開講評会」(講師：北野謙、小平雅尋、山田裕理) 東京造形大学、横浜BANKART KAIKO、2023年11月23日

### 【非常勤講師等】

#### 伊藤貴弘

女子美術大学「写真史」前期、東京藝術大学美術学部「写真映像論」2023年7月18日

#### 遠藤みゆき

明星大学「博物館情報・メディア論」秋学期

関西大学「映像メディア研究B」2023年11月17日

#### 関次和子

多摩美術大学「美術館経営論」前期

#### 武内厚子

跡見学園女子大学「写真論」秋学期

#### 田坂博子

明治学院大学文学部「デジタルアート論A/デジタルアート論1A」春学期

東京藝術大学美術学部「写真映像論」2023年5月9日、16日

#### 多田かおり

青山学院大学日本文学科「日本文学特講II」「日本文学特講B」ゲストスピーカー、2023年12月1日

#### 藤村里美

玉川大学芸術学部メディア・デザイン学科「メディア・デザイン理論C」2023年春学期

九州産業大学大学院「写真特殊演習(写真の現場)」2023年11月9日、10日

#### 山口孝子

独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所、令和4年度「博物館・美術館等の保存担当学芸員研修(上級コース)」、2023年7月13日

独立行政法人国立文化財機構文化財活用センター、令和4年度「博物館・美術館等の保存担当学芸員研修(基礎コース)」、2023年8月3日、2024年1月25日

#### 山田裕理

明治学院大学「現代社会と芸術III A, B」春学期・秋学期

### 【委員・審査員等】

#### 石田哲朗

T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO「山崎博写真展 10 POINTS HELIOGRAPHY 82/23」ゲスト・キュレーター、会場：国立映画アーカイブ1階ロビー、会期：2023年10月3日-10月29日

#### 伊藤貴弘

「The Portfolio, Seoul: The Photographic Arts Center, Seoul Museum of Art Pre-opening Program」レビュー、「令和5年度(第74回)東京都立高等学校定時制通信制芸術祭写真部門」審査委員、『FotoFilmic JRNL 19』ゲスト・エディター

#### 関次和子

高知県立美術館運営委員会委員、目黒観光写真コンクール審査員、横浜市美術資料収集審査委員会委員、公益社団法人日本広告写真家協会公募展 広告作品部門審査委員

#### 武内厚子

第57回かわさき市美術展写真部門審査員

### 多田かおり

「BUILDING BLOCKS: an homage to Seth Siegelaub」展示協力、作家：伊東謙介、会場：EUKARYOTE、会期：2023年6月10日-7月2日

### 藤村里美

日本写真芸術学会理事、神奈川県美術展委員、神奈川県美術展審査員(写真部門)

### 中野敬子

一般社団法人日本写真学会「教育への写真応用研究会」主査、「『写真好き』のための定例講演会」委員

### 山口孝子

日本写真学会理事、日本写真学会画像保存研究会委員、日本写真保存センター諮問委員、国立歴史民俗博物館資料保存環境検討委員会委員

### 山田裕理

「Life Actually: The Work of Contemporary Japanese Women Artists」(ゲスト・キュレーター：笠原美智子、山田裕理) Tokyo Gendai、「The Lens Culture Art Photography Awards 2024」審査員

### 【インターン】

東京都写真美術館では平成20年からインターン制度を導入している。令和5年度も指導学芸員とともに美術館のスタッフとして、展覧会事業補助、作品管理業務補助、教育普及プログラム補助等を担当し、将来の写真・映像文化を支える専門的な人材育成を行った。

### 杉浦駿介

担当業務：パブリックプログラム、スクールプログラム、社会包摂プログラム、ボランティア業務(教育普及事業補助)、恵比寿映像祭教育普及プログラムワークショップ企画実施及びプログラム補助、「即興 ホンマタカシ」展(展覧会事業補助)  
指導員：伊藤貴弘

### 室井萌々

担当業務：令和5年度「TOPコレクション 何が見える？」展、「風景論以後」展、「即興 ホンマタカシ」展、令和6年度「TOPコレクション 時間旅行」展(展覧会事業補助)、作品貸出業務  
指導員：石田哲朗

### 調査研究・普及活動 (アーカイブ研究会)

映像音響資料の保存管理および各種アーカイブ構築の技術と実践に係る専門機関や教育機関、研究者、技術者および関連企業等との研究および情報交流の機会として、平成29年度より定期的にアーカイブ研究会を実施している。6回目となる今回は、デジタル・アーカイブと仮想現実(VR)シミュレーターの活用可能性について、現地参加とオンライン視聴にて講演とディスカッションを行った。

### 第6回アーカイブ研究講習会

「デジタル・アーカイブと仮想現実(VR)シミュレーターの活用可能性について」

講師：砂山太一(京都市立芸術大学准教授)

視聴回数：44回

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、約3年ぶりに展示室内でのプレス向けギャラリートークを再開したほか、休止していた記者ブリーフィングを実施した。来館者がリアルに参加できる事業もコロナ禍前とほぼ同様に再開したが、引き続きオンラインを活用した広報も継続した。また、急速に拡大したインバウンド需要を受け、海外広報も強化した。

## 1 広報誌発行

### a. 「東京都写真美術館ニュースeyes (アイズ)」 (vol.113~116)

季刊、発行部数：各10,000部

<巻頭記事・メインテーマ>

113号「本橋成一とロベール・ドアノー 交差する物語」「TOPコレクション 何が見える?『覗き見る』まなざしの系譜」「田沼武能 人間讃歌」

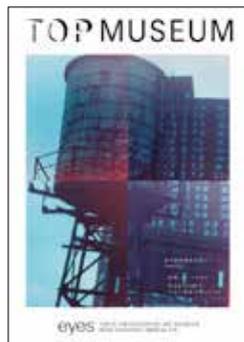
114号「風景論以後」「即興 ホンマタカシ」「見るまえに跳べ 日本の新進作家vol.20」

115号「即興 ホンマタカシ」「見るまえに跳べ 日本の新進作家 vol.20」

116号「記憶：リメンブラン ス 一現代写真・映像の表現から」「TOPコレクション 時間旅行 千二百箇月の過去とかんずる方角から」「令和6年度展覧会スケジュール」



eyes114号



eyes115号

### b. 広報誌別冊「nya-eyes (ニアイズ)」 vol.148~vol.158

月刊、発行部数：各号25,000部

展覧会をはじめとしたさまざまな美術館活動を紹介することを目的に、広報誌「eyes」の別冊として、漫画家カレー沢薫氏とコラボレーションした「nya-eyes (ニアイズ)」を発行した。



ニアイズ154号



ニアイズ156号

## 2 プレスリリース、チラシの配布およびポスター掲示

各展覧会についてプレスリリースを制作し、展覧会開催の2か月前を目途に、テレビ・ラジオ・雑誌・WEB等幅広いメディアにメール配信および郵送した(約800件)。あわせて、A4チラシとB2ポスターを全国の美術館、ギャラリー、教育施設、財団関係各所、恵比寿ガーデンプレイス周辺や、地域連携各施設に配布した(約330件)。また、今年度も引き続きチラシ配達サービスを利用し、全国のユーザー(約7,000名)に展覧会チラシ、東京都写真美術館ニュース「eyes」、別冊「nya-eyes」等を配布した。

## 3 プレス対応

令和5年度は、東京都写真美術館や展覧会についてなど、幅広い取材依頼に対応した。プレスリリースの早期配信およびバラエティーに富んだ作品図版の提供を心がけ、作家や担当学芸員へのインタビュー取材も積極的に受けるなど、展覧会をわかりやすく紹介するため柔軟に対応した。令和5年5月以降の新型コロナウイルス感染症5類移行に伴い、来館増に繋がるメディア取材の獲得を目途に、プレス内覧会を展示室内でのギャラリートーク形式を再開した。また、今年度からプレスの希望に応じて、手話通訳付きで実施する試みも開始した。そのほか広報東京都など、東京都や財団関係の掲載メディアへも情報提供をおこなった。

### a. プレス内覧会

展覧会名(開催日、媒体数、参加人数)

「TOPコレクション セレンディビティ 日常のなかの予期せぬ素敵な発見」(令和5年4月6日、23媒体・25名)

「田沼武能 人間讃歌」(令和5年6月1日、50媒体・55名)

「本橋成一とロベール・ドアノー 交差する物語」(令和5年6月15日、59媒体・64名)

「TOPコレクション 何が見える?『覗き見る』まなざしの系譜」(令和5年7月18日、24媒体・27名)

「風景論以後」(令和5年8月10日、39媒体・42名)

「即興 ホンマタカシ」(令和5年10月5日、75媒体・87名)

「見るまえに跳べ 日本の新進作家vol.20」(令和5年10月26日、28媒体・30名)

「恵比寿映像祭2024 月へ行く30の方法」(令和6年2月1日、51媒体・57名)

「記憶：リメンブラン ス 一現代写真・映像の表現から」(令和6年2月29日、59媒体・61名)



「TOPコレクション セレンディビティ 日常のなかの予期せぬ素敵な発見」プレス説明会より



「本橋成一とロベール・ドアノー 交差する物語」プレスギャラリートークより



「記憶：リメンブランス ー現代写真・映像の表現から」プレス説明会より

## b. 展覧会広報記録

展覧会名 (テレビ・ラジオ、新聞、雑誌・WEB)

「深瀬昌久 1961-1991レトロスペクティブ」(4件、75件、70件)

「TOPコレクション セレンディピティ 日常のなかの予期せぬ素敵な発見」(1件、16件、46件)

「田沼武能 人間讃歌」(5件、70件、85件)

「本橋成一とロベール・ドアノー 交差する物語」(5件、73件、116件)

「TOPコレクション 何が見える?『覗き見る』まなざしの系譜」(0件、9件、37件)

「風景論以後」(0件、48件、47件)

「即興 ホンマタカシ」(4件、73件、105件)

「見るまゝに跳べ 日本の新進作家vol.20」(0件、39件、54件)

「恵比寿映像祭2024 月へ行く30の方法」(4件、67件、585件)

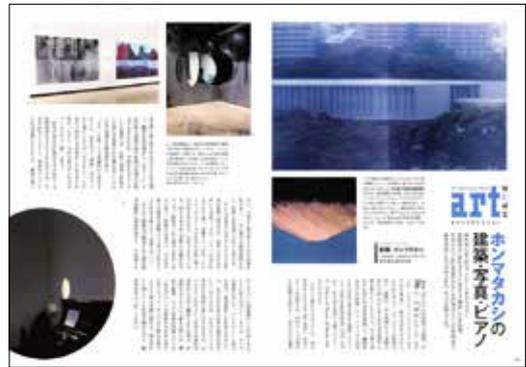
「記憶：リメンブランス ー現代写真・映像の表現から」(1件、4件、83件)



「TOPコレクション 何が見える?『覗き見る』まなざしの系譜」朝日新聞掲載記事 (令和5年10月2日掲載)



「風景論以後」東京新聞掲載記事 (令和5年8月25日掲載)



「即興 ホンマタカシ」芸術新潮12月号

## 4 オンラインを活用した広報

各展覧会の特性やターゲット層にあわせて様々なメディアを活用し、展覧会を多角的に紹介することで来館を促した。

ウェブサイトページビュー総数：4,631,452

X (旧ツイッター) フォロワー数：58,343

インスタグラムフォロワー数：18,340

YouTube登録者数：2,590

### a. 「深瀬昌久 1961-1991レトロスペクティブ」

- ・講演会「深瀬昌久 作家活動30年の軌跡」講師：トモ・コスガ (深瀬昌久アーカイブス、ディレクター) 動画 (YouTube 再生回数：6,005回)

### b. 「TOPコレクション セレンディピティ 日常のなかの予期せぬ素敵な発見」

- ・ハッシュタグキャンペーン「あなたに訪れたセレンディピティな瞬間をハッシュタグをつけて投稿しよう!」(令和5年6月17日~7月9日) 参加人数：Instagram：18件、X (旧ツイッター)：3件

### c. 「本橋成一とロベール・ドアノー 交差する物語」

- ・PR動画 (YouTube再生回数: 3,455回)
- ・本橋誠一インタビュー動画 (YouTube再生回数: 1,532回)
- ・アトリエ・ロベール・ドアノー代表アネット・ドアノー、フランシーヌ・ドルディルインタビュー動画 (YouTube再生回数: 1,079回)
- ・著名人のレコメンドメッセージを当館SNSで配信 (奈良美智 (アーティスト)、春風亭柳枝 (落語家)、紺野真 (organ/uguisuオーナーシェフ)、皆川明 (ミナペルホネン デザイナー)、クリス智子 (ラジオパーソナリティー)、森岡督行 (森岡書店 店主))

### d. 「TOPコレクション 何が見える?『覗き見る』まなざしの系譜」

- ・担当学芸員による展示解説ポッドキャスト (合計視聴回数: 1,669回)
- ・展示風景のPR動画 (会期中にショート版、会期終了後にロング版を公開、YouTube合計視聴回数: 1,746回)

### e. 「即興 ホンマタカシ」

- ・展示風景のPR動画 (YouTube視聴回数: 5,160回)



「TOPコレクション セレンディピティ 日常のなかの予期せぬ素敵な発見」ハッシュタグキャンペーン



「本橋成一とロベール・ドアノー 交差する物語」レコメンド・メッセージ配信



「TOPコレクション 何が見える?『覗き見る』まなざしの系譜」展示風景のPR動画

## 5 広告出稿

年間を通じて、さまざまな媒体に展覧会や館広報のための広告を出稿した。SNS広告や交通広告(車内サイネージ、駅構内サイネージ等)のほか、J-waveでの特別番組制作など、幅広いターゲットに届く広告出稿をおこなった。また、インバウンド広報として、世界中で60,000人を超えるメールマガジン登録者と、ユニークページビュー450,000/月を持つe-fluxで展覧会情報を配信をおこない、海外からの閲覧および多言語ページの閲覧増加につながった。

### a. 「深瀬昌久 1961-1991レトロスペクティブ」

- ・交通広告(ポスター) JR東日本(上野駅、東京駅、目黒駅、7日間)、東京メトロ(表参道駅、清澄白河駅、乃木坂駅、7日間)
- ・交通広告(デジタルサイネージ) JR東日本(恵比寿駅、7日間)
- ・恵比寿ガーデンプレイススカイウォークビジョン広告(14日間)、アドポール広告(12本、1か月間)
- ・SNSターゲティング広告(X(旧ツイッター)・インスタグラム・フェイスブック、14日間)
- ・ニコニコ美術館(令和5年5月2日生配信・アーカイブ視聴回数: 12,083回、コメント数: 2870本)

### b. 「TOPコレクション セレンディピティ 日常のなかの予期せぬ素敵な発見」

- ・交通広告(ポスター) 京王電鉄(主要9駅、35日間)
- ・交通広告(デジタルサイネージ) JR東日本(恵比寿駅、上野駅、池袋駅、横浜駅、7日間)
- ・SNSターゲティング広告(X(旧ツイッター)・インスタグラム、13日間)
- ・SNSターゲティング広告(TikTok、15日間)
- ・ニコニコ美術館(令和5年5月2日生配信・アーカイブ視聴回数: 12,083回、コメント数: 2870本)

### c. 「田沼武能 人間讃歌」

- ・交通広告(JRまど上チャンネル) 山手線・横須賀総武線快速15秒スポット1枠(7日間)
- ・交通広告(ポスター) JR東日本(恵比寿駅、7日間)、東京メトロ(恵比寿駅、7日間)、京王電鉄(会期中)

- ・交通広告（デジタルサイネージ）JR東日本（恵比寿駅、7日間）
- ・SNSターゲティング広告（X（旧ツイッター）・インスタグラム、14日間）

**d. 「本橋成一とロベール・ドアノー 交差する物語」**

- ・交通広告（JRまど上チャンネル）山手線・横須賀総武線快速15秒スポット1枠（7日間）
- ・交通広告（東急TOQまど上ビジョン）田園都市線2020系15秒スポット1枠（7日間）
- ・交通広告（ポスター）JR東日本（恵比寿駅、目黒駅、7日間）、東京メトロ（恵比寿駅、竹橋駅、六本木駅、銀座駅、京橋駅、日本橋駅、7日間）、京王電鉄（会期中）、都営地下鉄（六本木駅、日本橋駅、7日間）、東急電鉄（目黒駅、7日間）
- ・交通広告（デジタルサイネージ）東京メトロ（首都圏パック、7日間、六本木駅、1か月間、上野駅、1か月間）
- ・恵比寿ガーデンプレイススカイウォークアドポール広告（12本、1か月間）
- ・J-wave番組内特集「DIGUP!」、「ACROSS THE SKY」、「Good Neighbors」2回、同スポットCM
- ・SNSターゲティング広告（X（旧ツイッター）・インスタグラム・フェイスブック、14日間×1回、7日間×2回）
- ・LINE広告（アカウント元：TOKYO ART BEAT）2回
- ・ニコニコ美術館（令和5年8月21日生配信・アーカイブ視聴回数：15,425回、コメント数：4,434本）
- ・e-flux（令和5年7月14日）

**e. 「TOPコレクション 何が見える?『覗き見る』まなごしの系譜」**

- ・交通広告（JRまど上チャンネル）山手線・横須賀総武線快速15秒スポット1枠（7日間）
- ・交通広告（ポスター）JR東日本（上野駅、目黒駅、横浜駅、7日間）、東京メトロ（恵比寿駅、六本木駅、清澄白河駅、表参道駅、7日間）、京王電鉄（10日間）
- ・SNSターゲティング広告（X（旧ツイッター）・インスタグラム・フェイスブック、TikTok、展覧会告知15日間、ポッドキャスト告知12日間、PR動画告知12日間）
- ・ニコニコ美術館（令和5年8月21日生配信・アーカイブ視聴回数：15,425回、コメント数：4,434本）
- ・e-flux（令和5年7月20日）

**f. 「風景論以後」**

- ・交通広告（JRまど上チャンネル）山手線・横須賀総武線快速15秒スポット1枠（7日間）
- ・交通広告（ポスター）JR東日本（上野駅、目黒駅、横浜駅、14日間）、京王電鉄（5駅、10日間）
- ・東京新聞朝刊テレビ欄下全3段カラー（1日）
- ・図書新聞全5段モノクロ（3日）
- ・SNSターゲティング広告（X（旧ツイッター）・インスタグラ

- ム・フェイスブック、14日間）
- ・e-flux（令和5年8月8日）

**g. 「即興 ホンマタカシ」**

- ・交通広告（JRまど上チャンネル）山手線・横須賀総武線快速15秒スポット1枠（7日間）
- ・『IMA MAGAZINE vol.40』（発行：株式会社アマナ）表3カラー1ページ
- ・SNSターゲティング広告（X（旧ツイッター）・インスタグラム・フェイスブック、15日間）
- ・ニコニコ美術館（令和5年12月5日生配信・アーカイブ視聴回数：13,339回、コメント数：2,904本）

**h. 「見るまえに跳べ 日本の新進作家vol.20」**

- ・交通広告（JRまど上チャンネル）山手線・横須賀総武線快速15秒スポット1枠（7日間）
- ・東京新聞朝刊題字下カラー朝刊・全5段カラー（1日）
- ・『GENIC』（発行：ミツバチワークス）カラー1ページ
- ・SNSターゲティング広告（X（旧ツイッター）・インスタグラム・フェイスブック、15日間）
- ・ニコニコ美術館（令和5年12月5日生配信・アーカイブ視聴回数：13,339回、コメント数：2,904本）

**i. 「恵比寿映像祭2024 月へ行く30の方法」**

- ・交通広告（JRまど上チャンネル）山手線・横須賀総武線快速15秒スポット1枠（7日間）
- ・SNSターゲティング広告（X（旧ツイッター）・インスタグラム・フェイスブック、15日間）
- ・ニコニコ美術館（令和6年2月2日生配信・アーカイブ視聴回数：12,009回、コメント数：3,093本）

**j. 「記憶：リメンブランス —現代写真・映像の表現から」**

- ・交通広告（JRまど上チャンネル）山手線・横須賀総武線快速15秒スポット1枠（7日間）
- ・SNSターゲティング広告（X（旧ツイッター）・インスタグラム・フェイスブック、15日間）
- ・e-flux（令和6年3月15日）

**k. 館広報**

- ・交通広告（JRまど上チャンネル）山手線・横須賀総武線快速15秒スポット1枠（7日間）
- ・交通広告（デジタルサイネージ）JR東日本（恵比寿駅、令和5年度から引き続き7日間）
- ・恵比寿ガーデンプレイススカイウォークビジョン広告（令和5年度から引き続き14日間）、アドポール広告（12本、令和5年度から引き続き1か月間）



「本橋成一とロベール・ドアノー 交差する物語」 e-flux



山手線サイネージ

## 6 存在感のある美術館づくりのための取り組み

### a. 「トップのお正月2024」

正月開館の賑わいと東京都写真美術館の幅広い事業をPRすることを目的に、3年ぶりに「トップのお正月」を実施した。

実施期間：令和6年1月2日～1月3日

実施内容：①来館者全員に記念品（東京都写真美術館オリジナルニアイズポチ袋）を贈呈。（配布数：1,834部）②展覧会：「即興 ホンマタカシ」「見るまにに跳べ 日本の新進作家 vol.20」「プリビクテ Human/人間」の入場無料（合計入場者数：5,006名）③ショップ：購入者の方にポストカードプレゼント（配布数：100部）④カフェ：振る舞いミニコーヒー（1月2日10～11時限定、配布数200部）



東京都写真美術館オリジナルニアイズ ポチ袋

**b. カフェ「フロムトップ」と展覧会のコラボレーションメニュー**  
展覧会をより楽しんでいただくために、カフェ「フロムトップ」と共同企画し、期間限定のオリジナルメニューを提供した。

・「深瀬昌久 1961-1991 レトロスペクティブ」

販売メニュー：「深瀬昌久 1961-1991 レトロスペクティブ」×フロムトップ×Kusa.喫茶 オリジナルコーヒー「1961-1991 ブレンド」 イートイン600円、豆販売100g 1,200円（すべて税込）

販売期間：令和5年3月3日～6月4日

・「本橋成一とロベール・ドアノー」

販売メニュー：「本橋成一とロベール・ドアノー」×フロムトップ×Kusa.喫茶オリジナルコーヒー「生きる、喜び」 イートイン（HOT）600円、（ICE）650円、豆販売100g 1,200円（すべて税込）

販売期間：令和5年6月23日～9月24日

## 7 記者ブリーフィングの実施

開催日：令和6年2月15日

出席者数：16名

〈ブリーフィング項目〉

- ・令和6年度展覧会概要説明
- ・恵比寿映像祭2024「第2回コミッション・プロジェクト」ファイナリスト発表
- ・質疑応答



## 8 屋外掲出（年間契約、有料）

### a. 恵比寿ガーデンプレイス周辺広告

- ・スカイウォーク電飾看板
- ・ポスターボード
- ・自立サイン看板

### b. 美術館外壁

- ・巨大写真ディスプレイ
- ・懸垂幕

### c. JR恵比寿駅周辺広告

- ・ポスター（東口／恵比寿ガーデンプレイス方面）
- ・サイン看板（西口／日比谷改札方面）



自立サイン看板



JR西口サイン看板



スカイウォーク電飾看板



JR恵比寿駅ポスター



巨大写真



懸垂幕

## 9 財団との広報連携

### a. 「サマーナイトミュージアム2023」

会期：令和5年7月20日～8月31日の木・金曜日

開館時間：21:00まで（入館は20:30まで）

観覧料：17:00以降の入館について、学生・中高生無料、一般・65歳以上は団体料金

対象となる展覧会：「田沼武能 人間讃歌」「本橋成一とロベール・ドアノー 交差する物語」「TOPコレクション 何が見える？『覗き見る』まなざしの系譜」「風景論以後」

### b. 「ミュージアムで謎解きを ミュージアムラリー2023」

東京都写真美術館外壁の巨大写真（ロベール・ドアノー《市庁舎前のキス》）がクイズの題材として取り上げられた。

会期：令和5年7月22日～9月3日

参加施設：東京国立近代美術館、国立西洋美術館、国立新美術館、東京都美術館、東京都庭園美術館、東京都写真美術館、東京都現代美術館

### c. 「Welcome Youth (ウェルカムユース) 2024」

18歳以下を対象に展示観覧料を無料化するほか、スタンプラリー企画に協力した。

会期：令和6年3月1日～4月7日

対象展覧会：「恵比寿映像祭2024 コミッション・プロジェクト」「記憶：リメンブランス ー現代写真・映像の表現から」「APA アワード 2024」

## 10 地域との広報連携

恵比寿ガーデンプレイス (YGP) との広報展開

- ・YGPホームページ

YGPの運営するウェブサイトへ展覧会および上映情報を随時掲載し、利用者への情報発信を行った。

- ・オフィスワーカー割引

YGP利用者のリピート来館のために、オフィスワーカーへの  
観覧割引サービスと、当館チケットをお持ちの方へのYGP内  
店舗でのサービス提供を行った。

・「エレシネマ」への広報展開

YGPの運営するオフィス棟内のエレベーター内に設置された  
モニターにワーカー向け告知CM放送した。

- ① ワーカー割引 展覧会2割引（誘致展除く）
- ② 「恵比寿映像祭2024」開催告知